




早くこの女が
欲しいか...

フフフッ...

フフ、そうか
そうか...



フフフフ…
たかが写真だけで
これほど集まっ
てくるとはな

考えるに
おぞましい
ヤツらよ

もはや、
完全に標的として
認識している…
同情するよ
フフフフ…!

行け……!!

『メス』として
ファイオラを……
本能のままに
いたぶるなり、
犯すなり……

好きに
してくるが
いい……!!



逃げなきゃ

逃げな
いと…!!

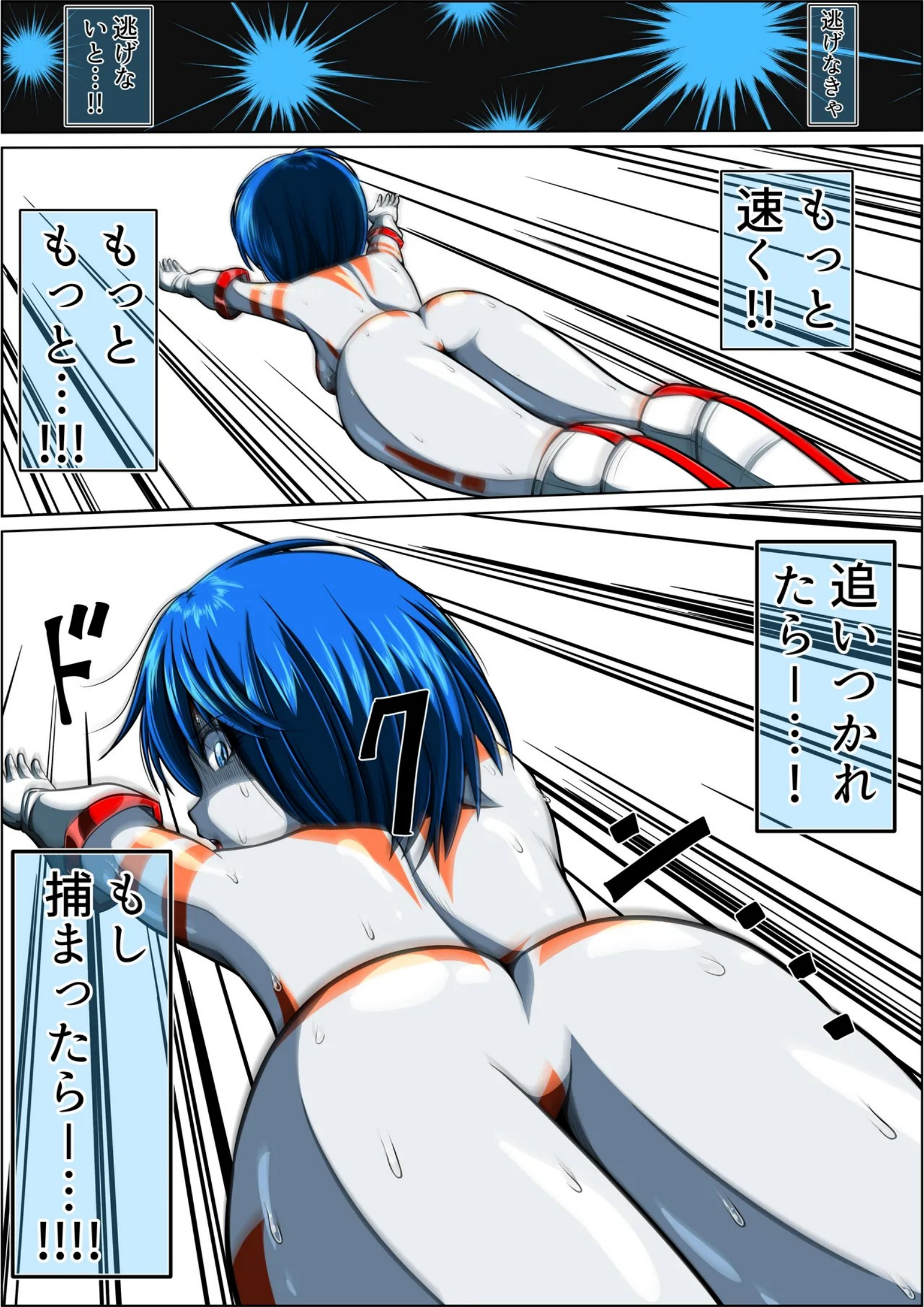
もつと
速く!!

もつと
もつと…!!!

追いつかれ
たら…!!!

ド

もし
捕まったら…!!!!

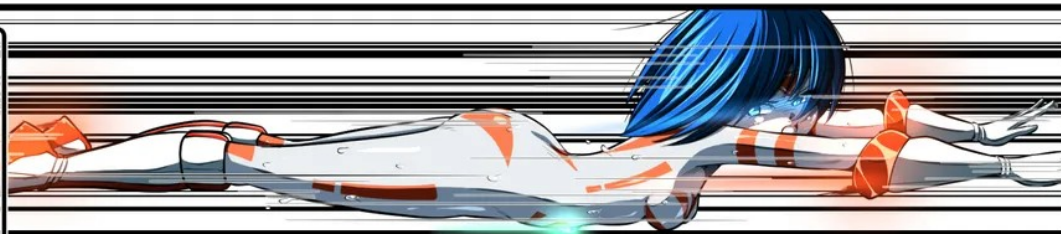


また…
また…!!

いつかの
ように…!!



必死の表情で
飛行する
フィオラ姫



彼女は
今……

おどましい
触手たちから

なんとか
逃れようと
していた

飛行速度には
自信のあつたはずの
姫だったが……

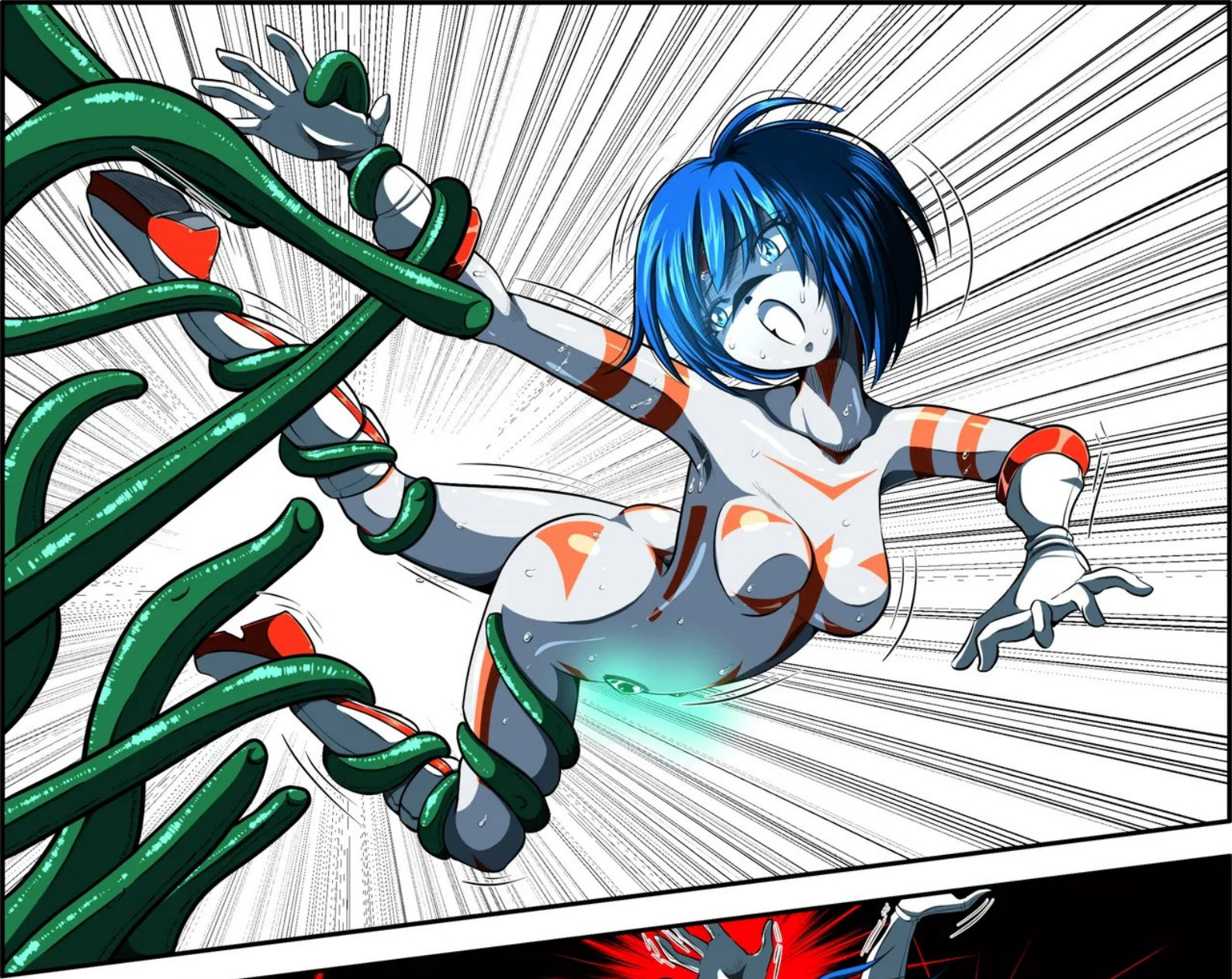


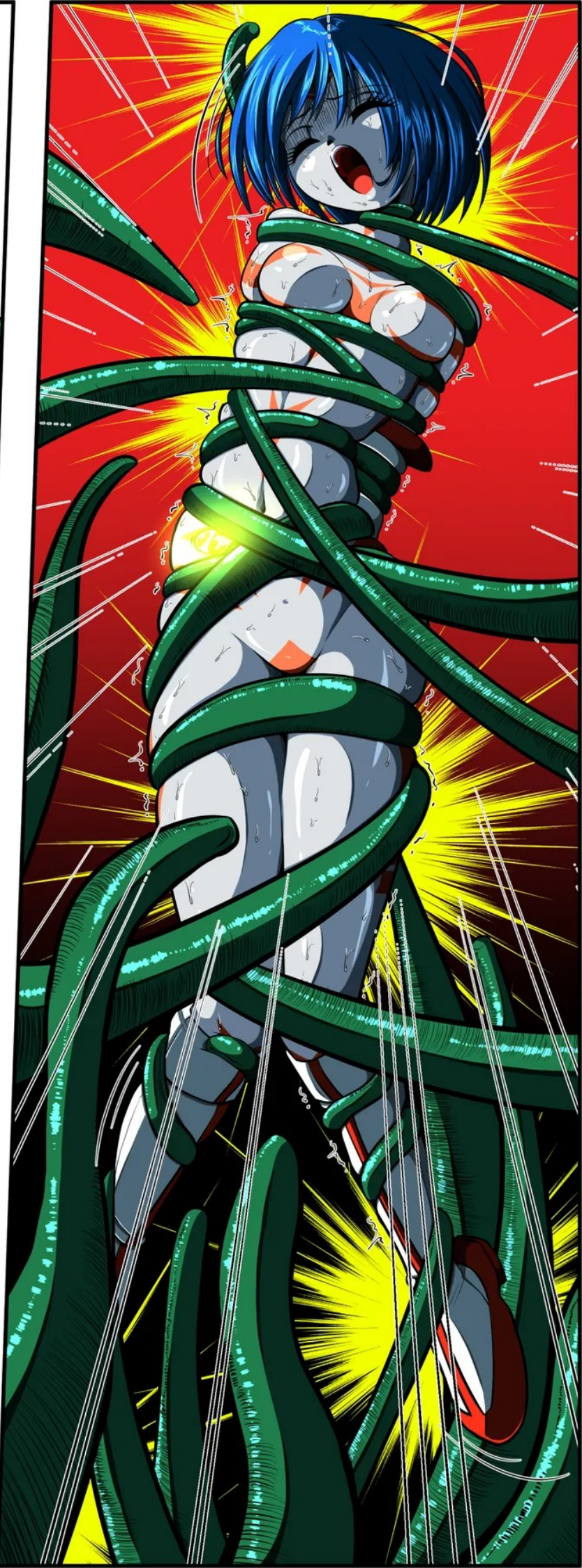
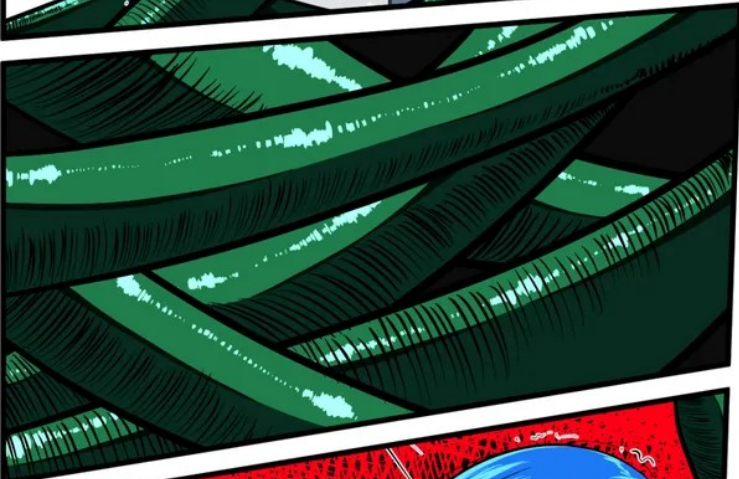
触手たちの
スピードは

彼女の
想像を……

遥かに
超えていた……







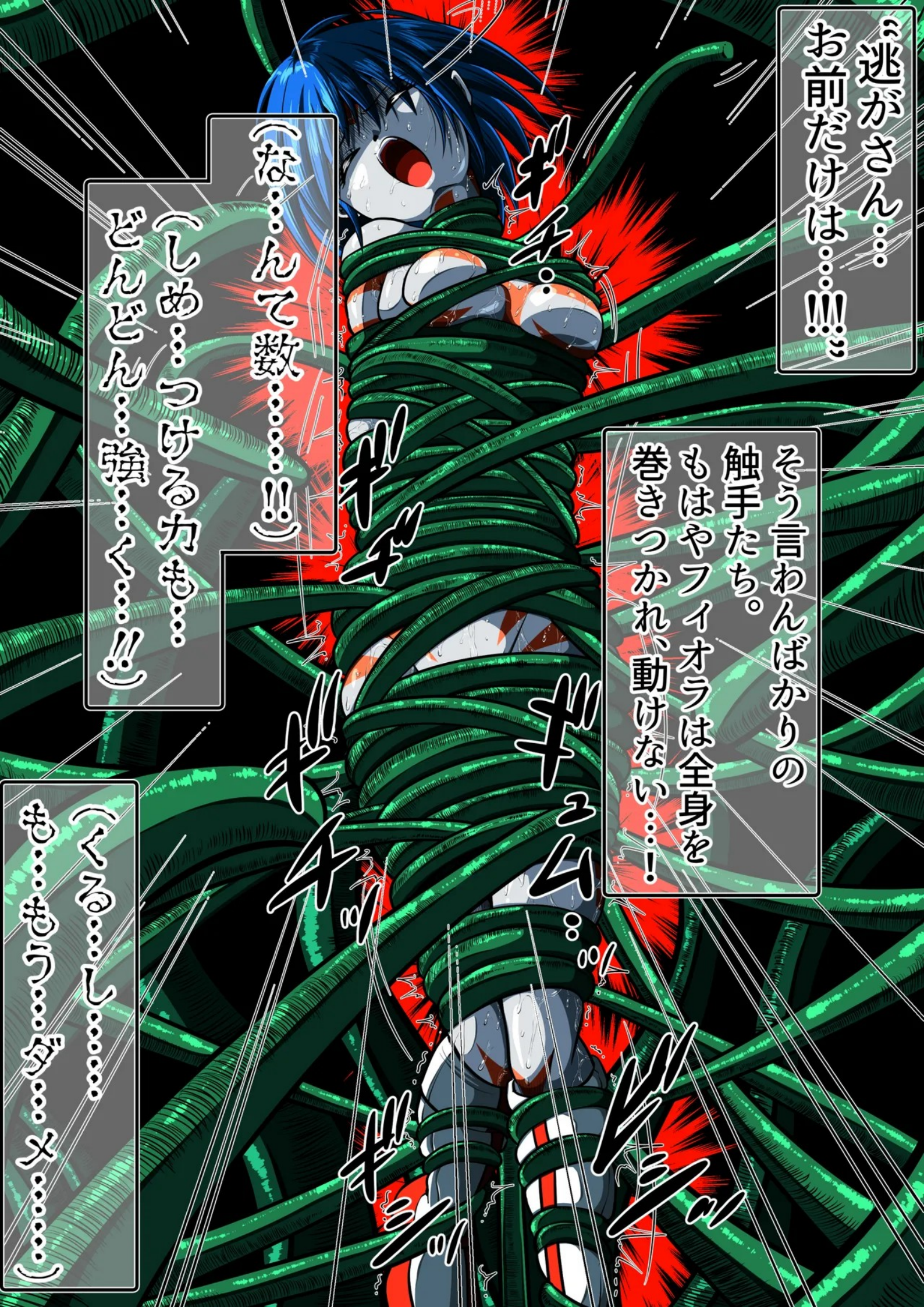
「逃がさん……
お前だけは……!!!」

そう言わんばかりの
触手たち。
もはやファイオラは全身を
巻きつかれ、動けない……!

(な……んて数……!!!)

(しめ……つける力も……
どんどん……強……く……!!!)

(……に……に……
……に……に……
……に……に……)



……
奴等め

いよいよ
个体独自に
動き出した……か

……どらどらどらは
いよいよ……

あの姫を
使つて……

ウネ……

ウネ……

ウネ……

クク……クク……
こいつは
面白くなる……

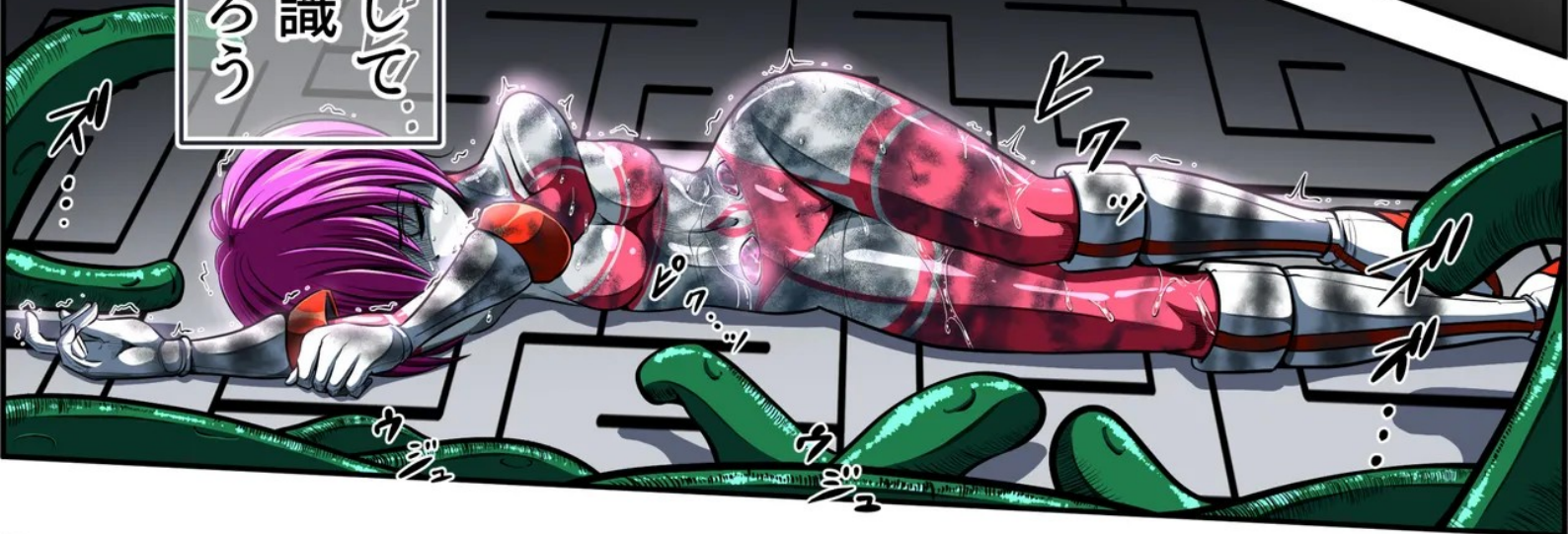
ウネ……

カ
カ
カ

私が産み出した
奴等は……

ファイオラ姫を
なぶり、犯す
ことを……

『快樂』として
完全に認識
したのでらう

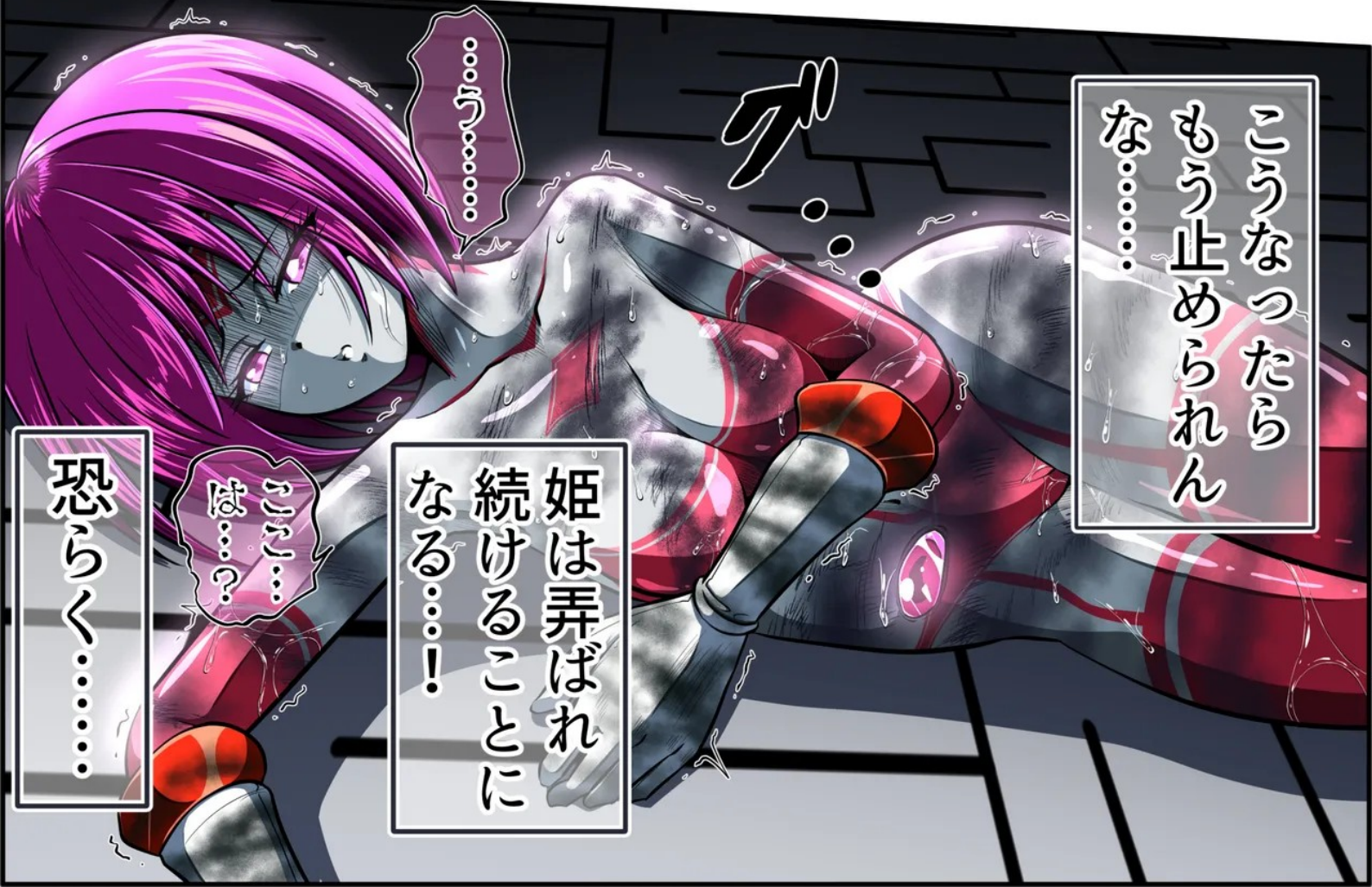


こうなつたら
もう止められん
な……

姫は弄ばれ
続けること
なる……!

は……
は……

恐らく……



フィオラは
全身に冷たい
汗をかいていた

あの触手たちの
眼前で……

自分は無防備に
気絶していたのだ



(なぜ……?
なぜ……何も
されなかつたの……?)

絶好の機会を
わざわざ逃して
ただ、蠢いている
触手たち……

だが……姫の
覚醒とともに

彼等は再び
動き出す



背後から……!
完全に気配を
消したモノたちが

『獲物』のフィオラを
めがけ……

一斉に

動き出した



触手たちの
存在を感じ取った
ときには――！

もう、すべてが
遅かった

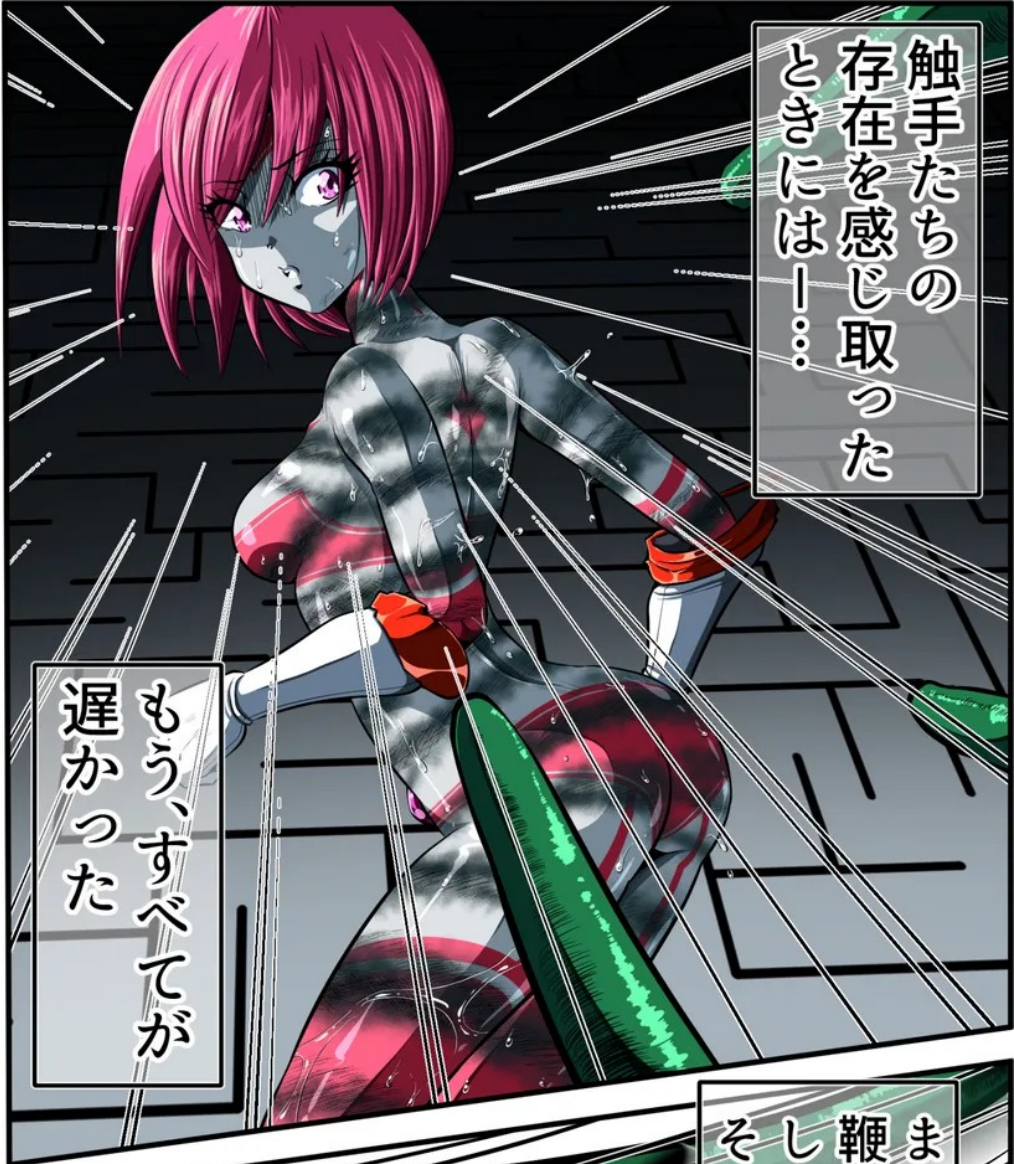
まるで
鞭のように
しなる
それが

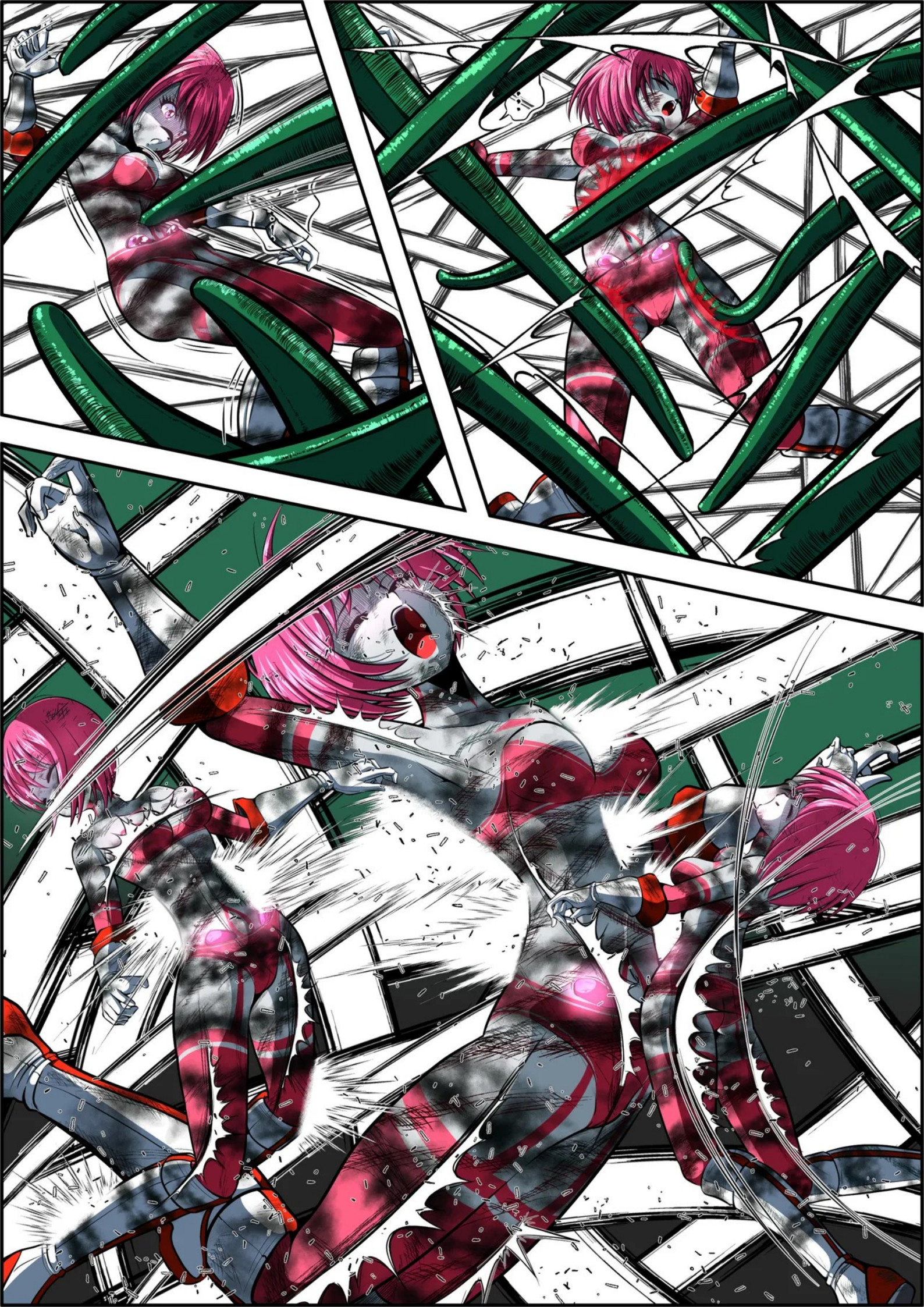
姫の横頬を
襲う

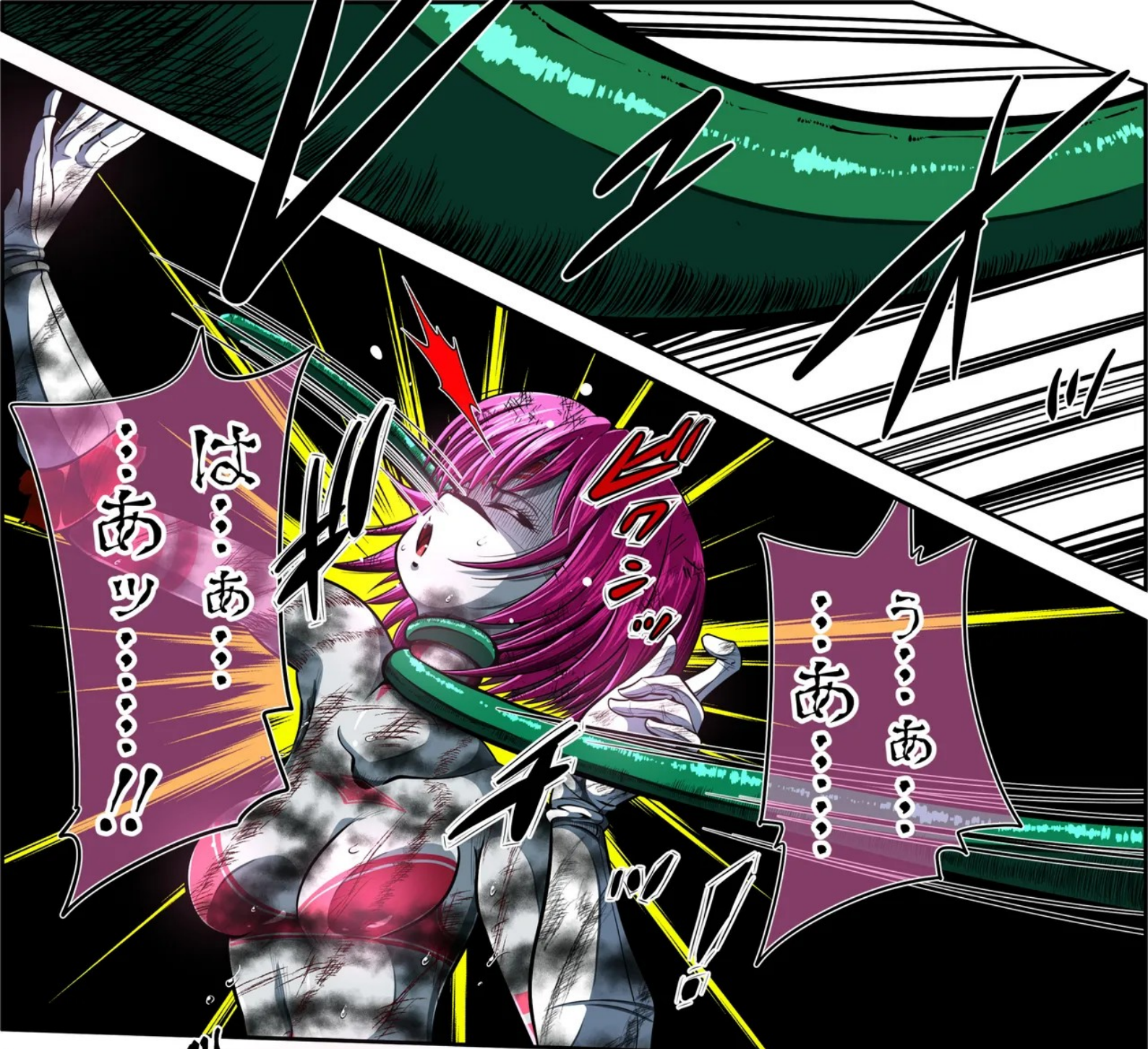
悲鳴をあげる
ことすら出来ず――！

ファイオラは
顔面を強烈に
打たれ――！

そして――

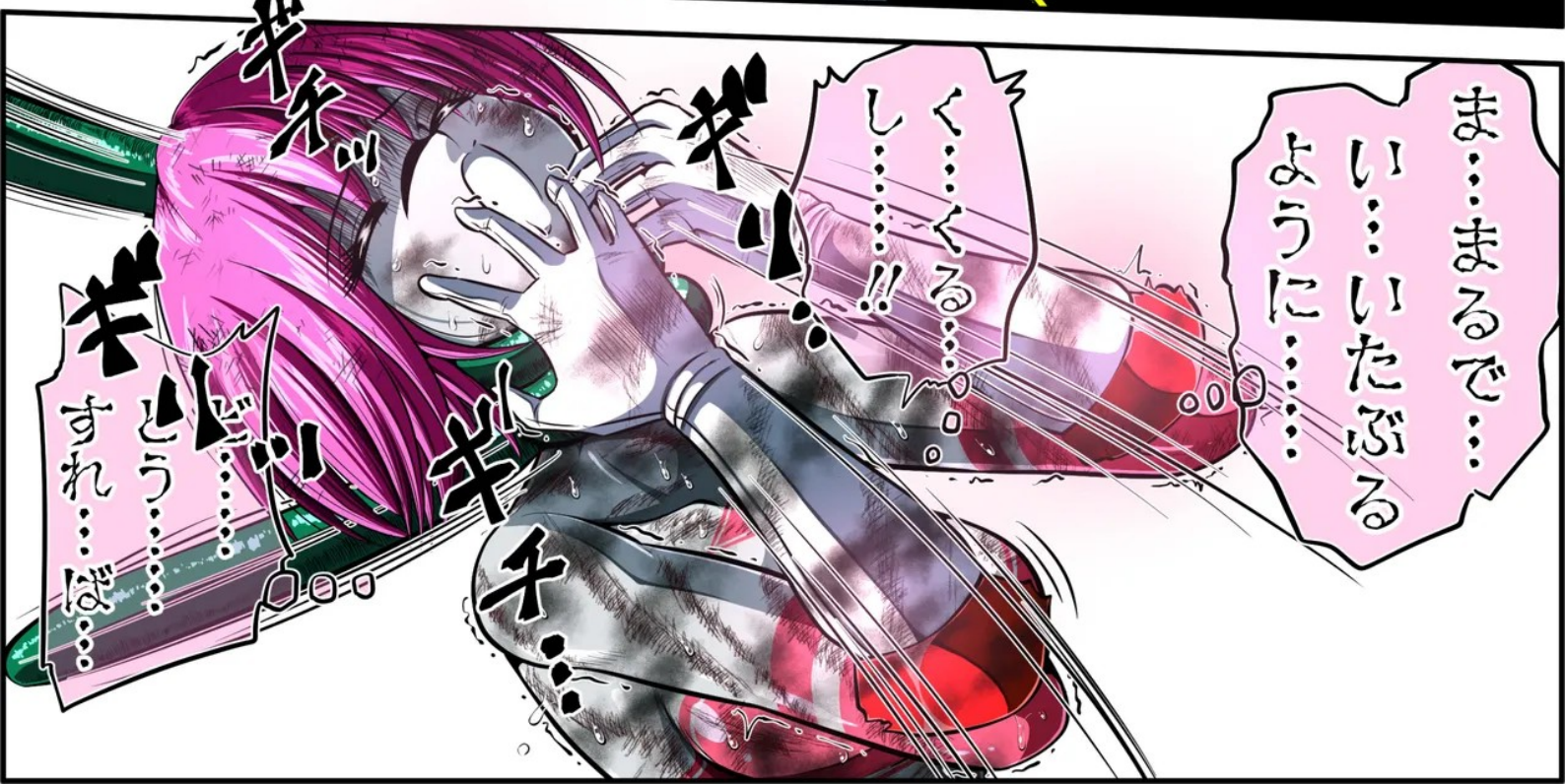






は…あ…
あッ…!!

う…あ…
あ…



ま…まるで…
い…いたぶる
ように…

く…くる…
し…!!

すれ…ほ…
どう…

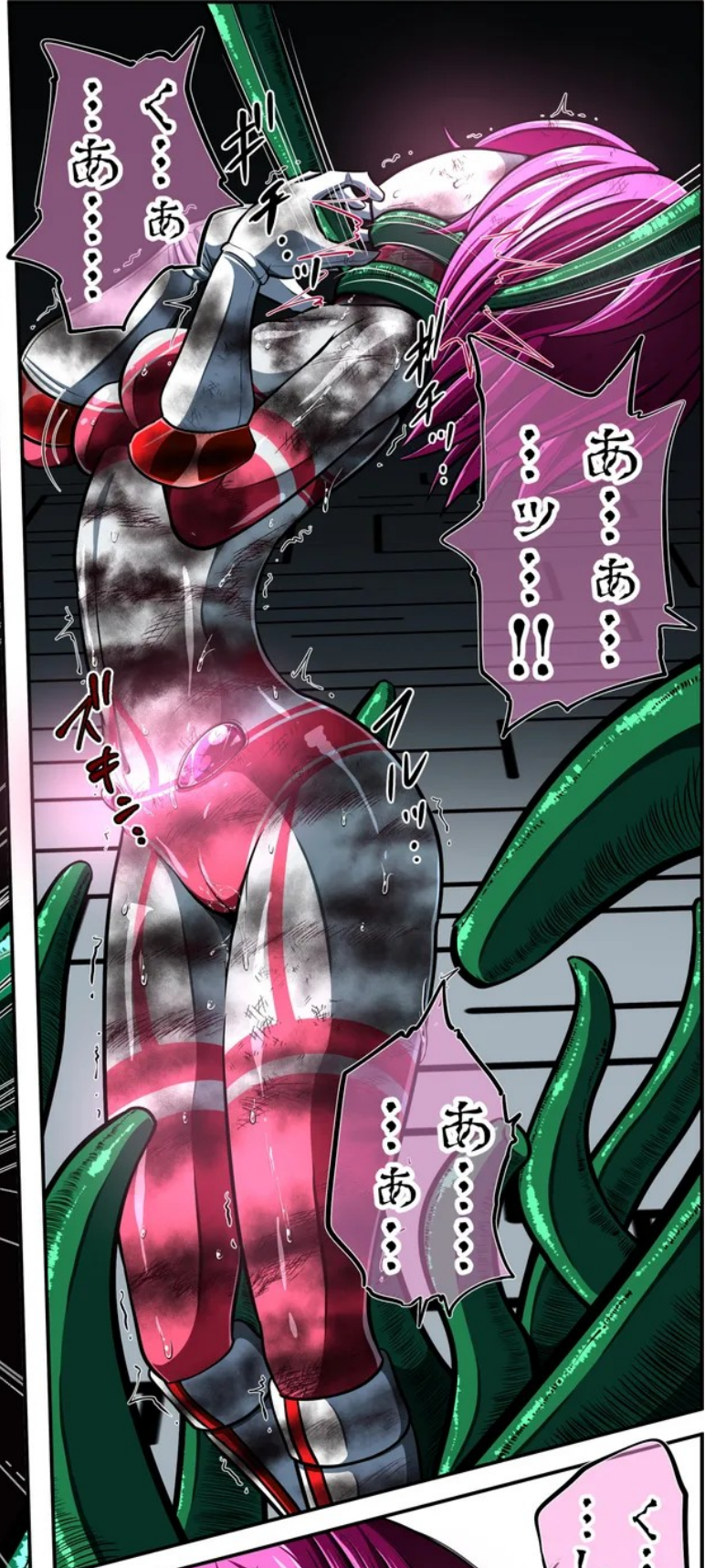


疼…全身…が

そ…それに
私…の
この…姿…

戦う…ための…
チカラが…

出…ない…!!
ま…った…く…



く…あ
あ…あ…

あ…あ…
あ…あ…!!

あ…あ…



い…息が…
できな…

く…くる…
し…

グゲグゲッ...

グゲグゲッ...

!!!

うあああッ!!

ドウダ?
チカラ
我々ノカ!

思イ知ツタカ?
フイオラ皇女!

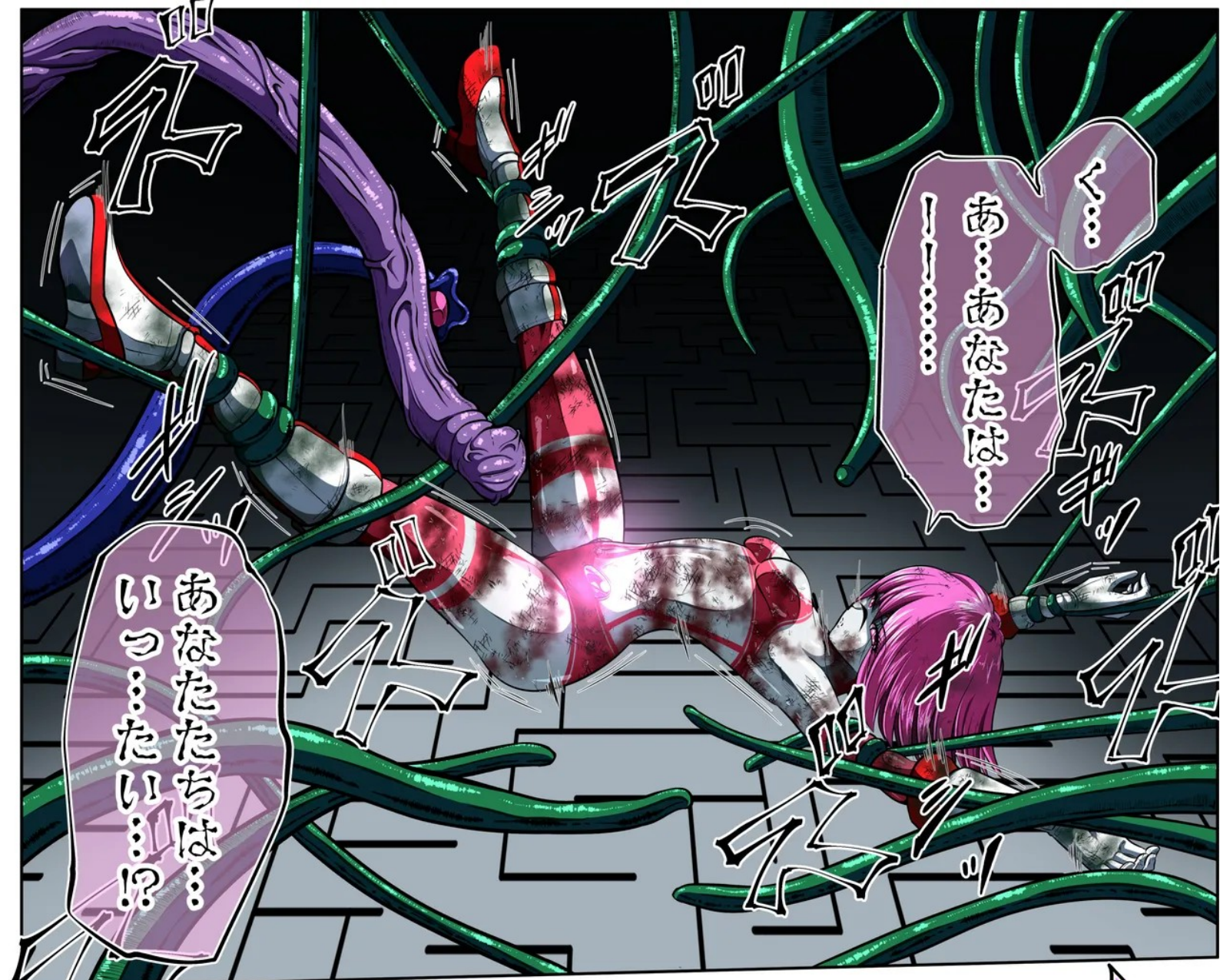
グゲグゲ...

ギッ

!!

!!

ギッ



あ……あなたは……
……………

あなたたちは……
いつ……たい……!?



オマエ……
……



見テノ通りノ
キセイ生物タヨ……



ズンズン!!



ドクッ

…ツ…ツ…ツ
バカ…な…
そ…そんな…

ドクッ
そんな目的…
で……!!



グゲゲツ…
ソクナ目的?

十分ダロ?
ゲゲツ!



あ…!!

ギョッ

苦シメ…
…!!
イタズラ

モテアソビ
…!!
犯スタメニ
生マレタ…ナ

クズクズモ!!
タガヨヨ...、ゼウ
ヒトツ目的ガ
デキタンダ...

大キナ目的ガ

.....
.....
.....

大志な...

.....

目的.....
!?

姫

「繁殖」
...だよ

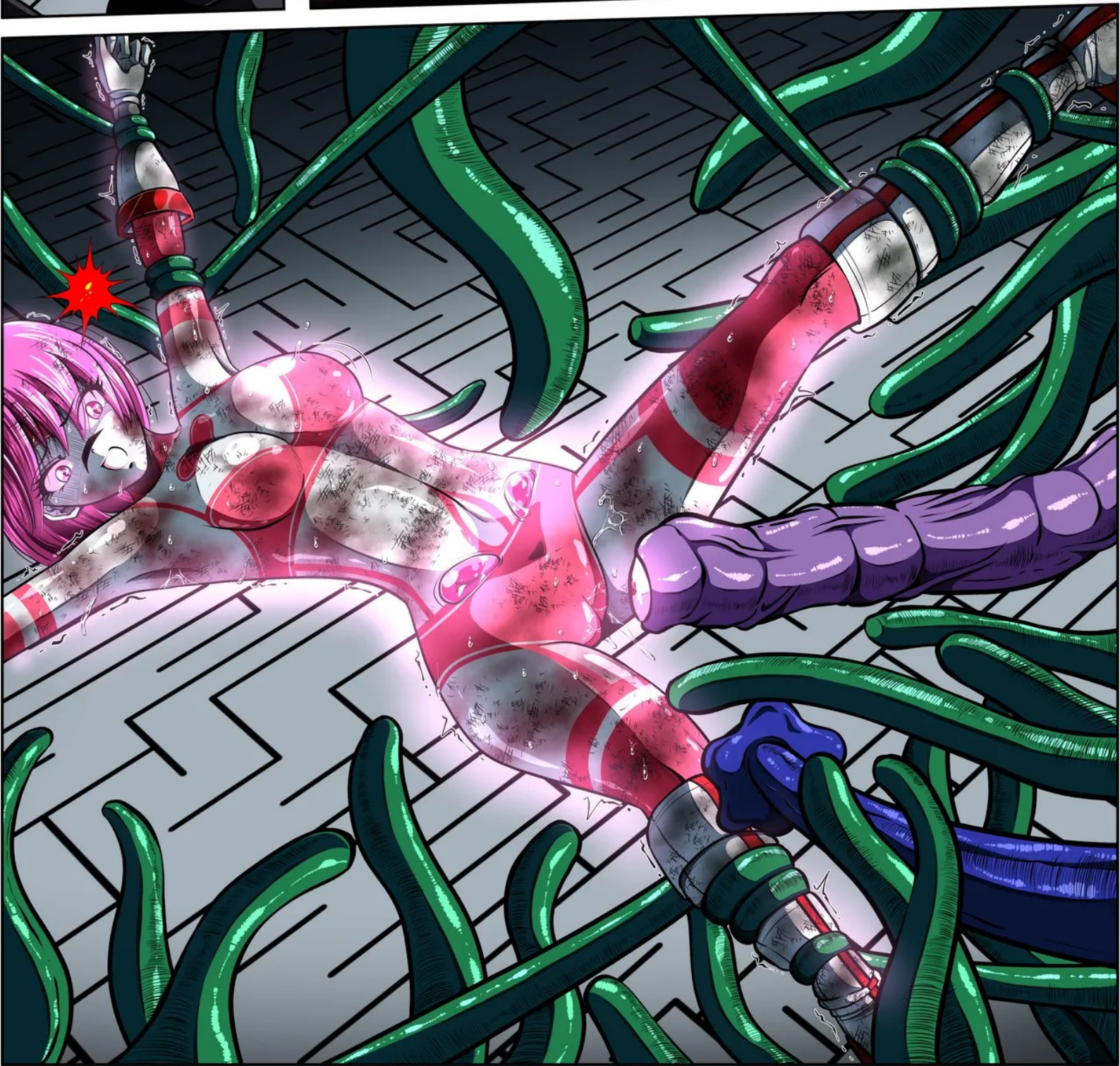
ズ

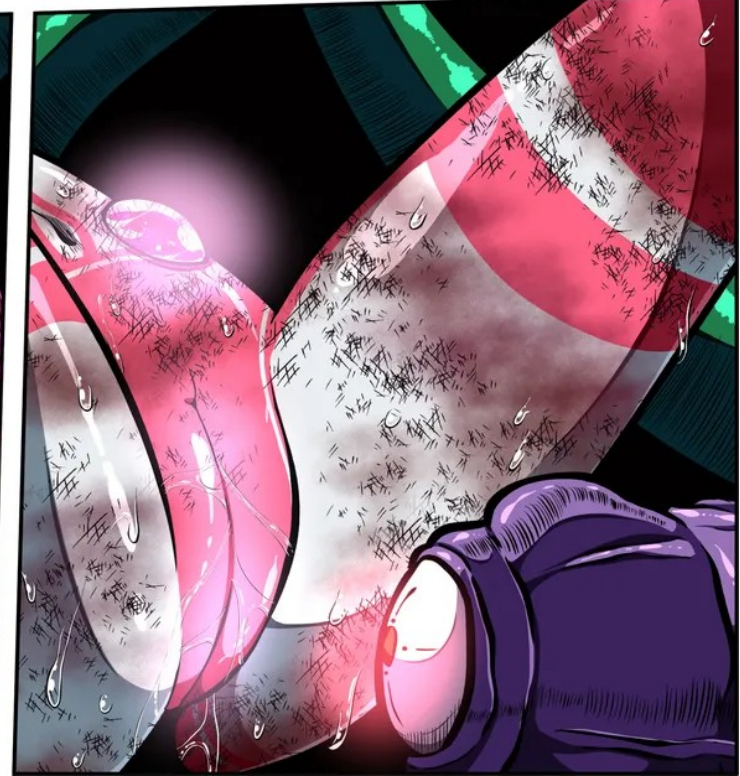
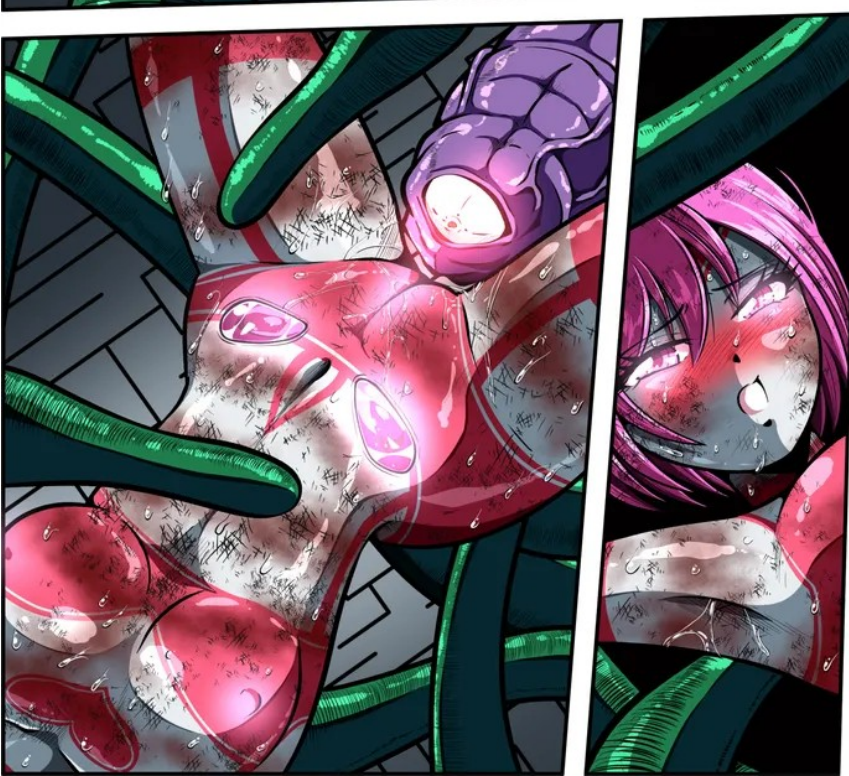
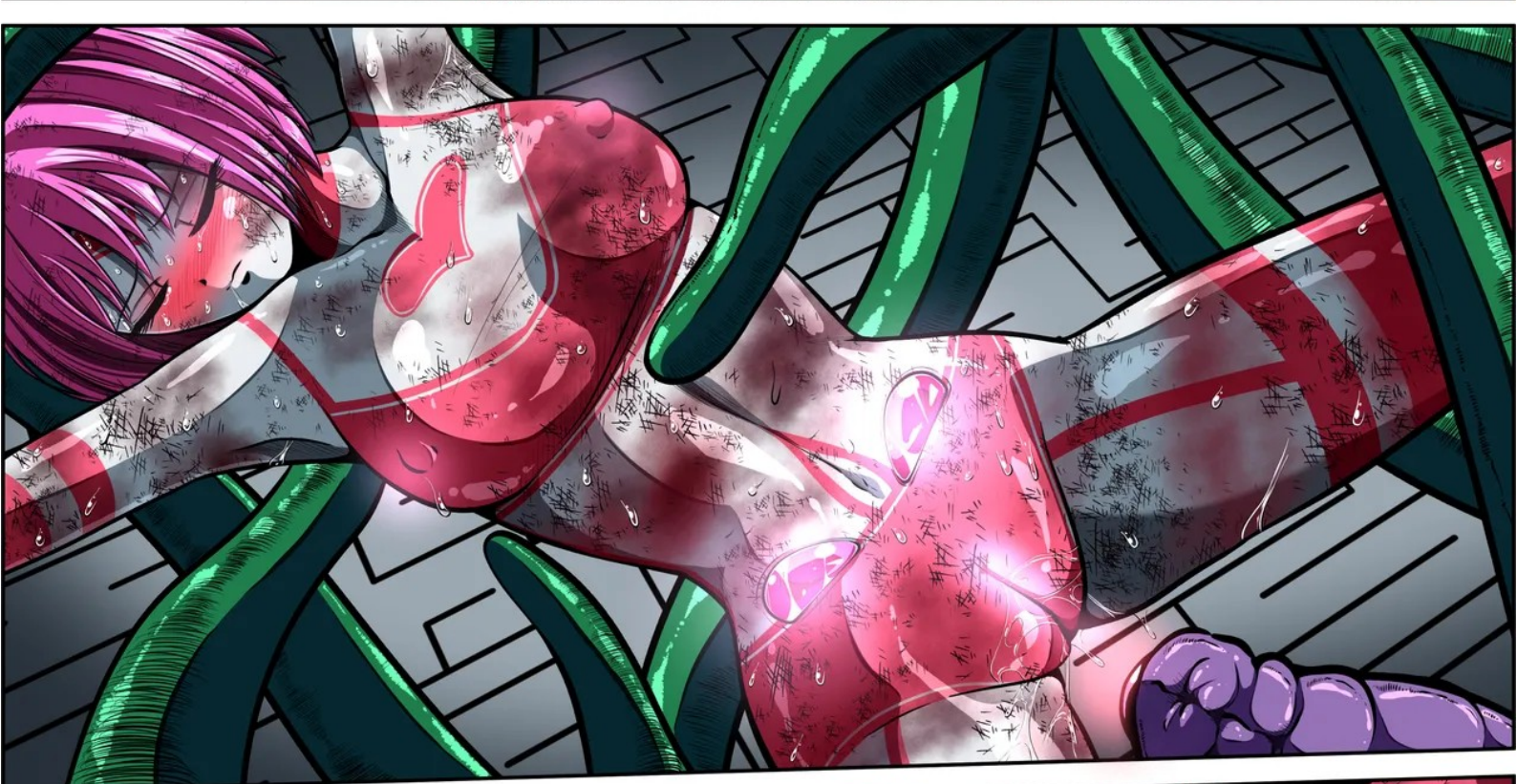
ズ

ズ

ズ

...



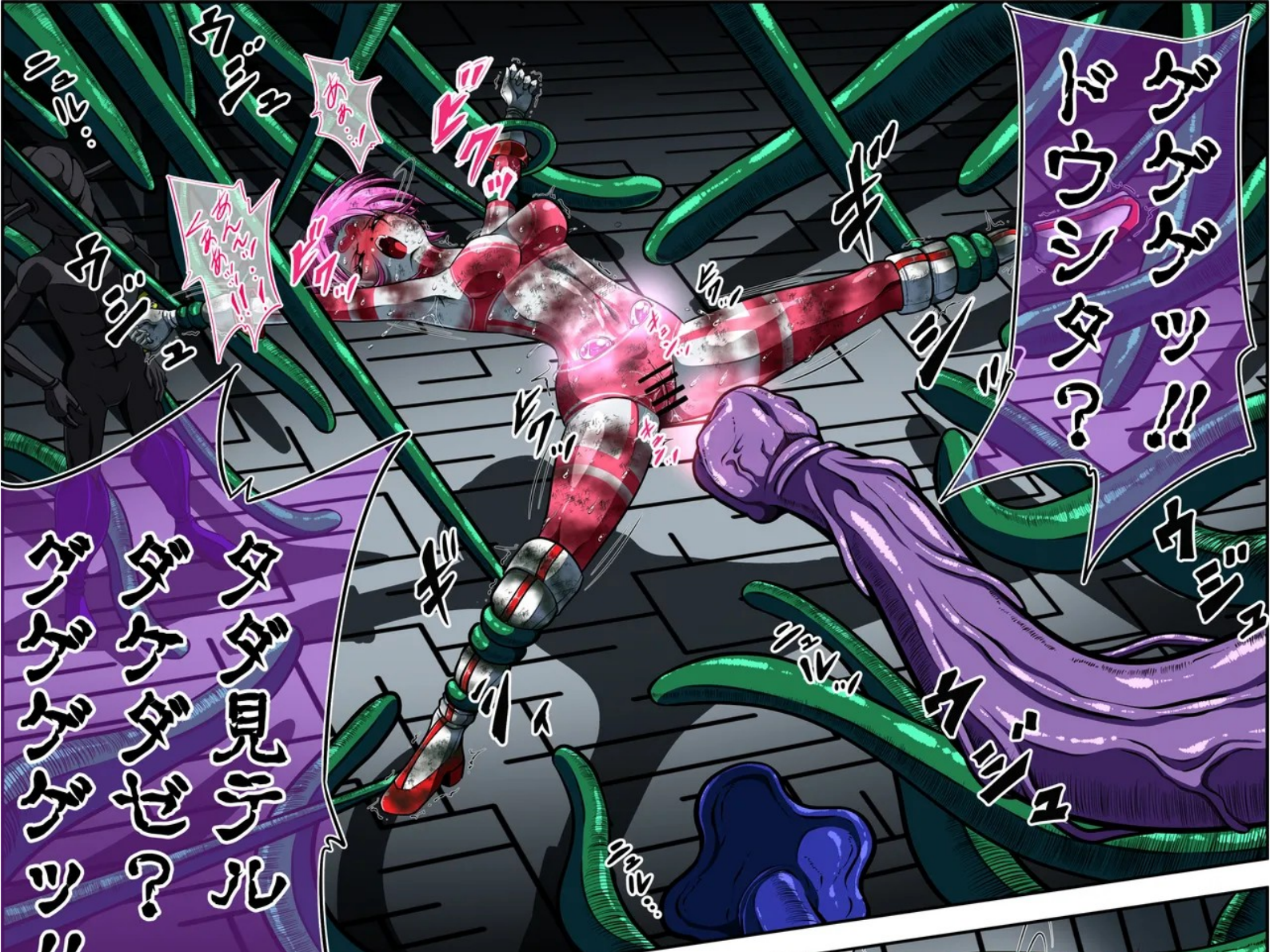


『凝視』

これだけでも
今のお前には
強烈に効く
だろうよ…!!

あつ…あ…!!
ああ…あつ…!!!

あああああ
あああああ…あつ!!!



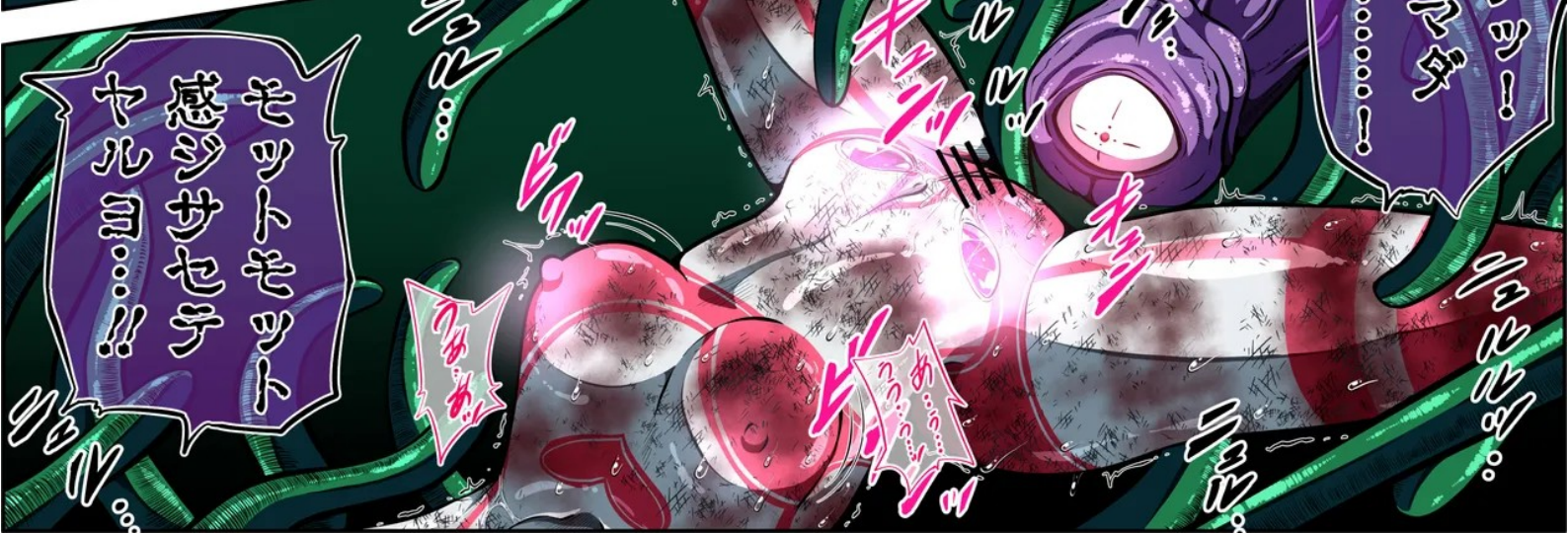
タタ見テル
タタタゼ?
グワッグワッ!!

ドウシタ?!!
タタタ



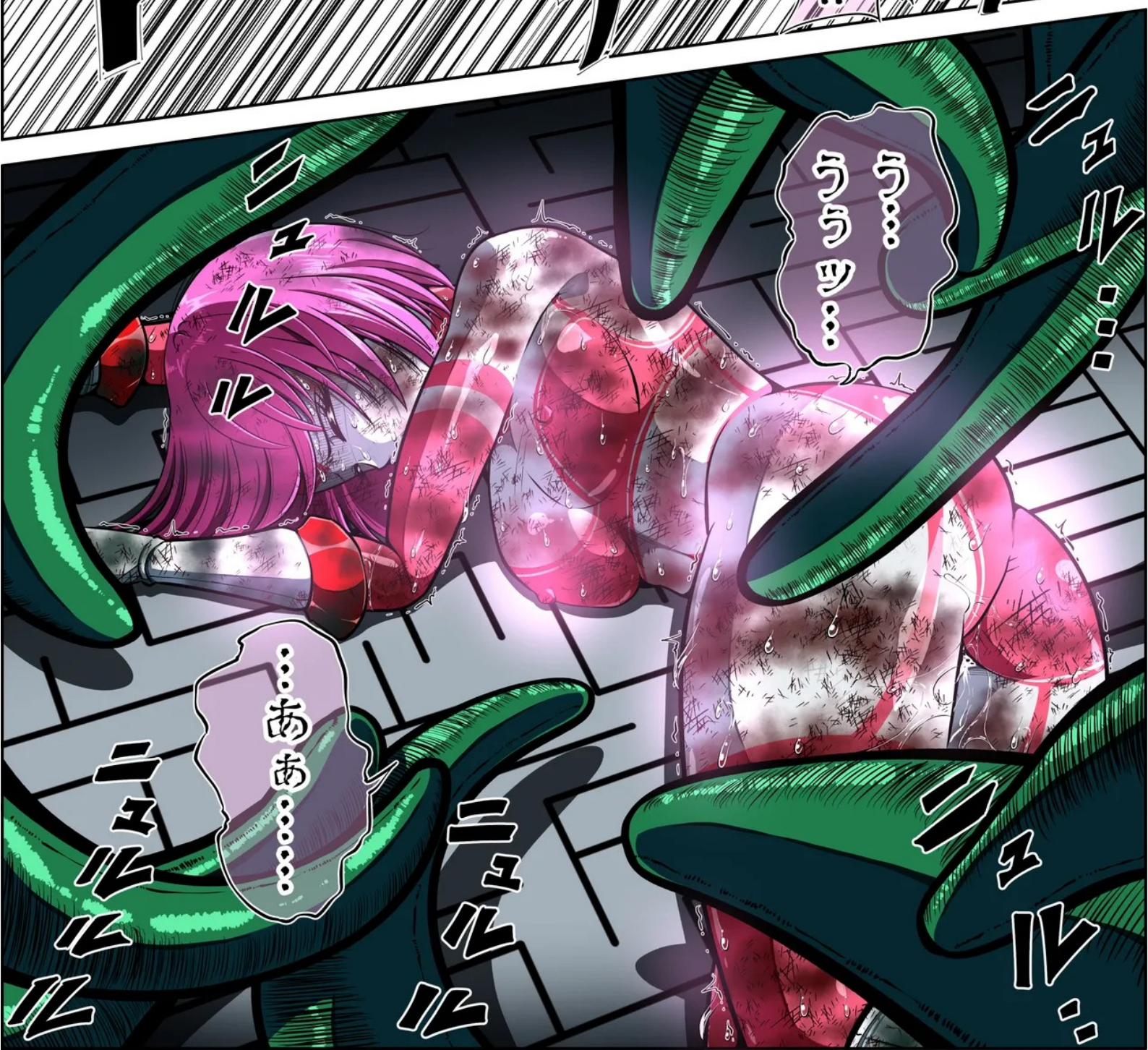
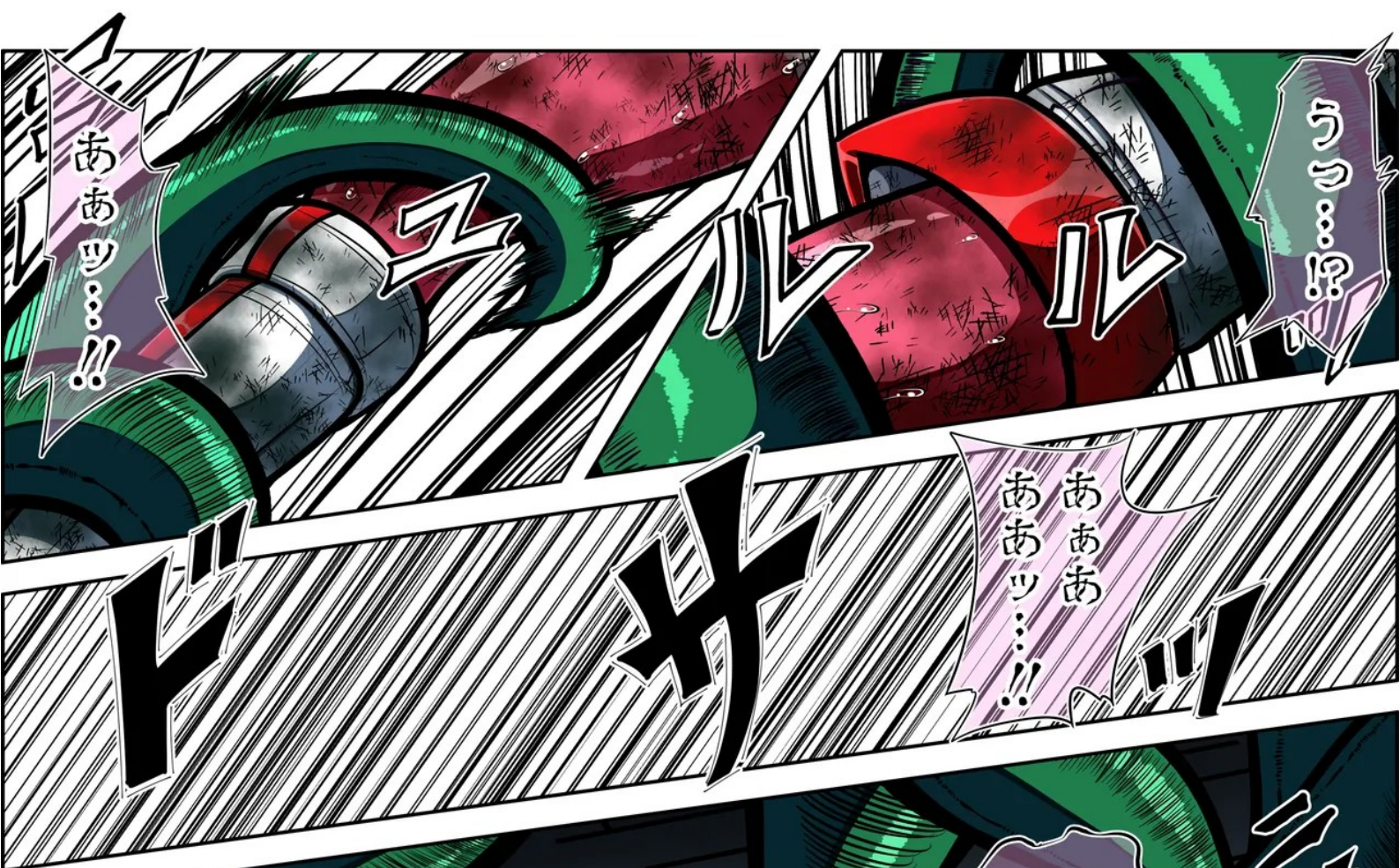
い...や...
見ない...で
...ツ...!!

クワッ...
グワッ...



クワッ...
グワッ...
クワッ...

クワッ...
グワッ...
クワッ...



クワクワクワ
そのおびえ
切った表情...

ズ

ズ

ズ

ズ

ははは...
やはりお前には
ささられる...

な...
なんて...

く...
く...
く...

う...
う...
う...

なんて...
数...!!

次はどんな
ふうかー...

もたえて
くれるのかな...

フ

フ

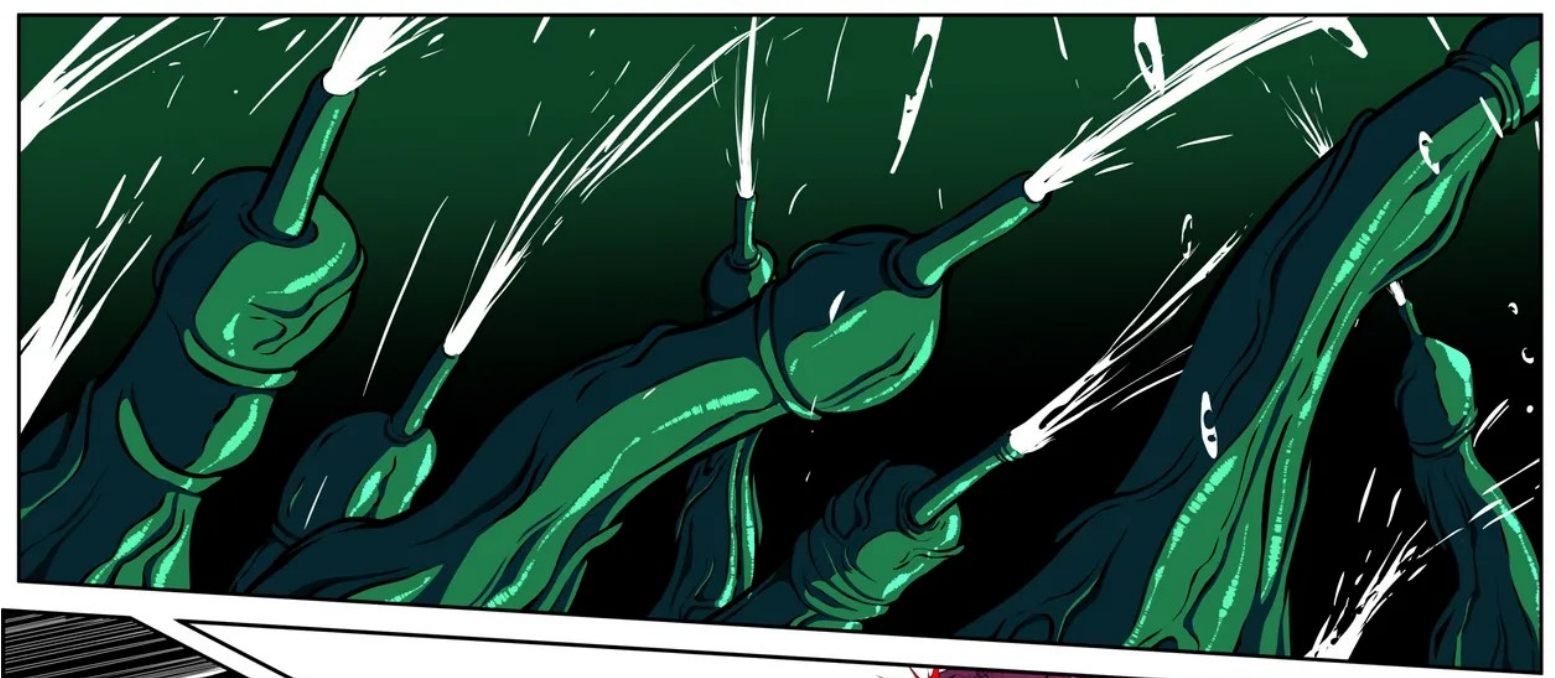
フ

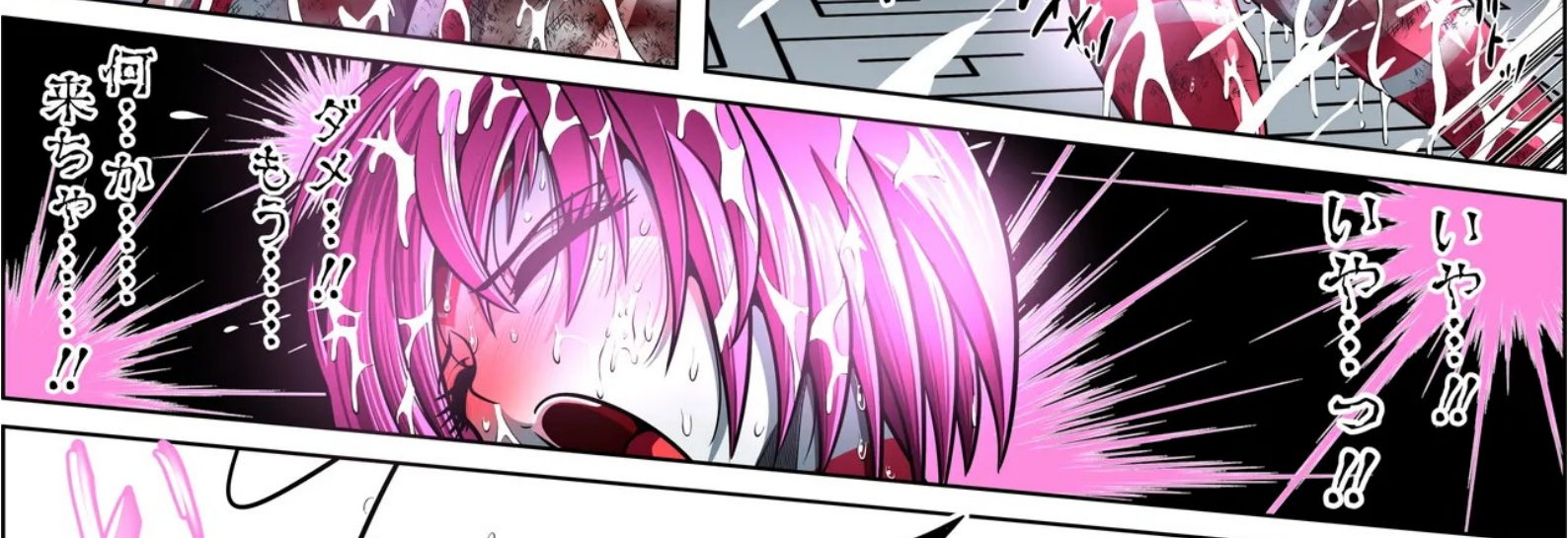
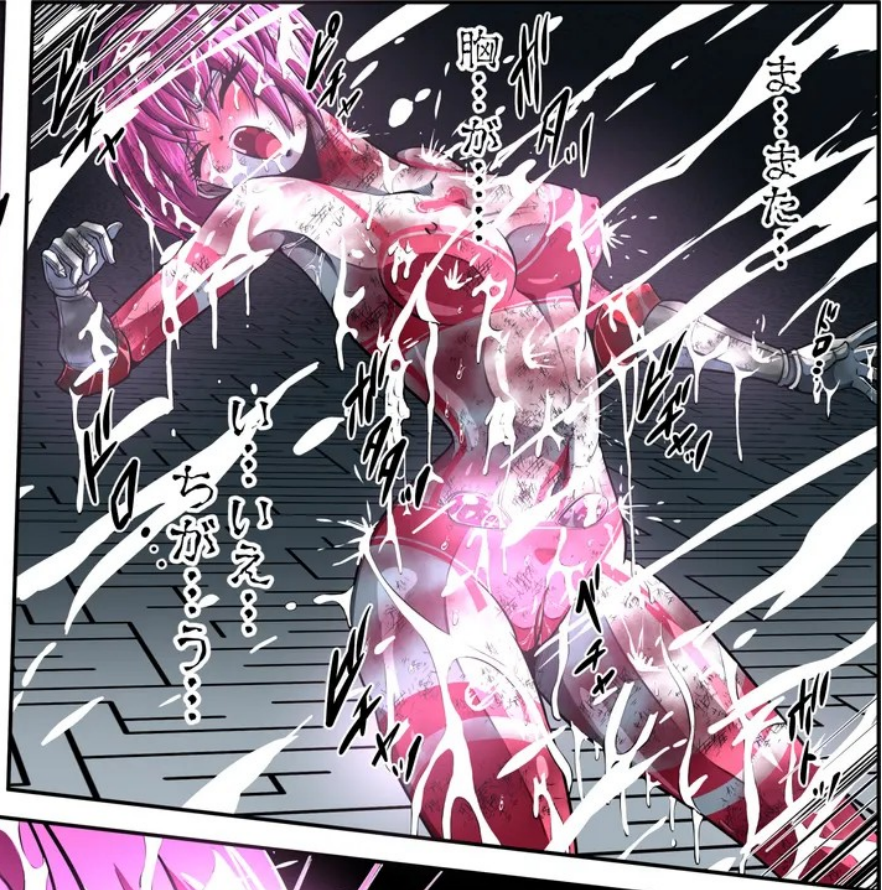
フ

フ

フ

フ





ぞ...ん...ん...
 全身...が...
 熱...い...!!
 熱...い...!!

胸...が...
 ち...が...
 い...え...
 い...え...
 い...え...

何...か...
 来...ち...や...!!
 い...や...!!
 い...や...!!

ファイオラの
カラダから

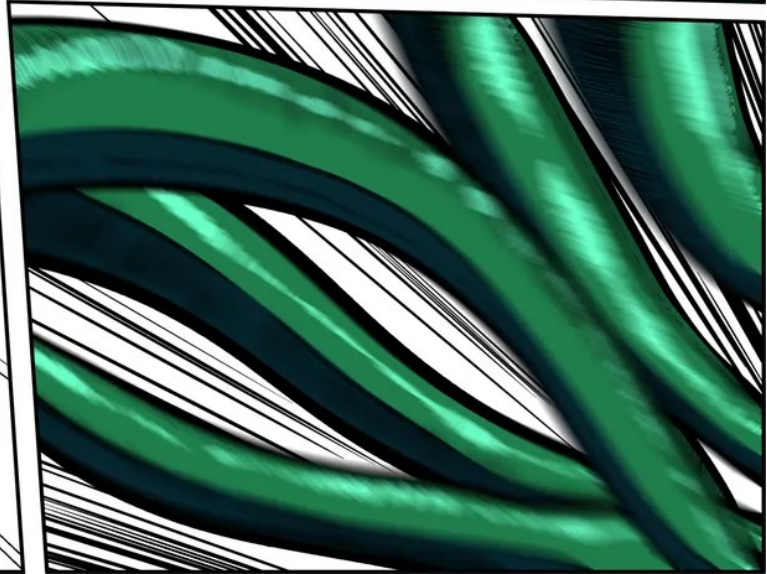
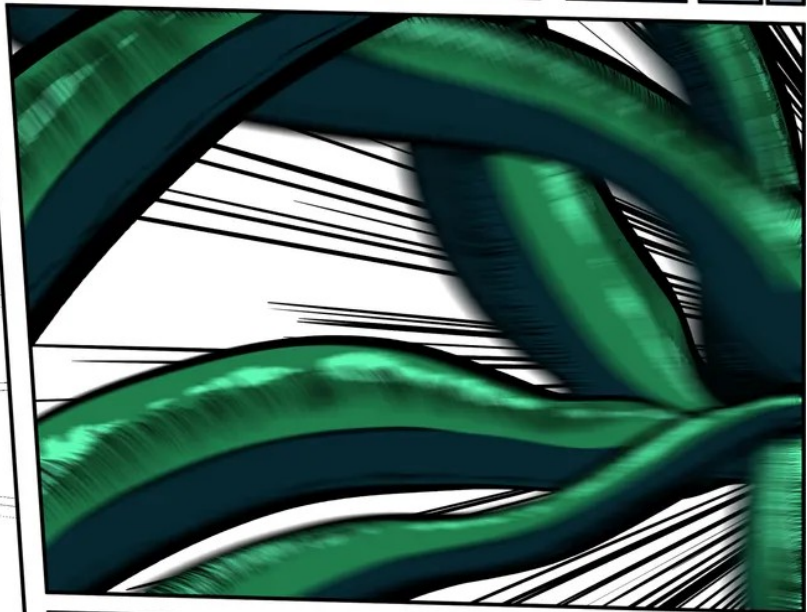
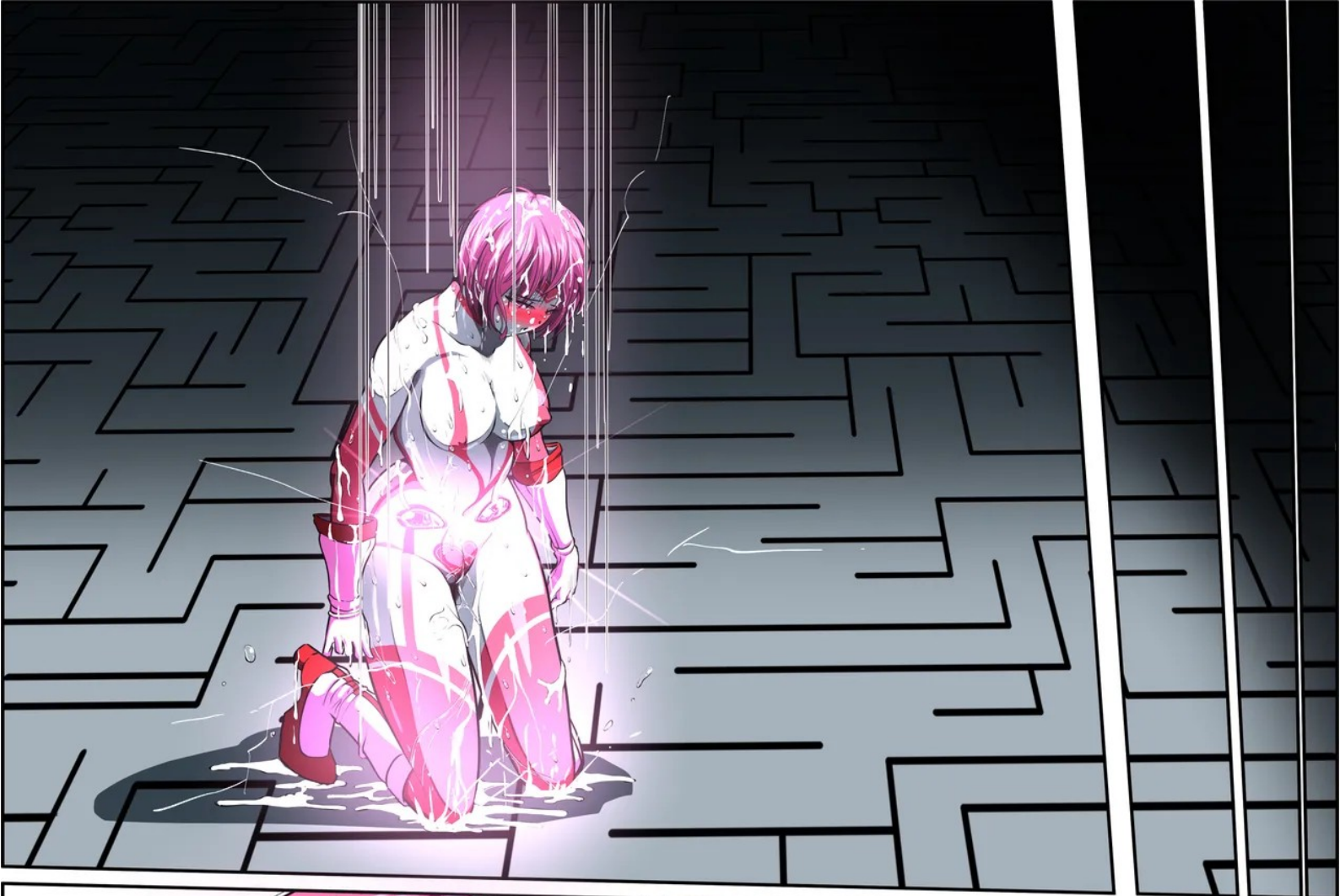
桃色の
まばゆい光が
発せられる

このとき、
彼女は感じて
いた

全身から力が
抜けていく
感覚と……

目の前が
真っ白に
なるような

凄まじい
快感を……!





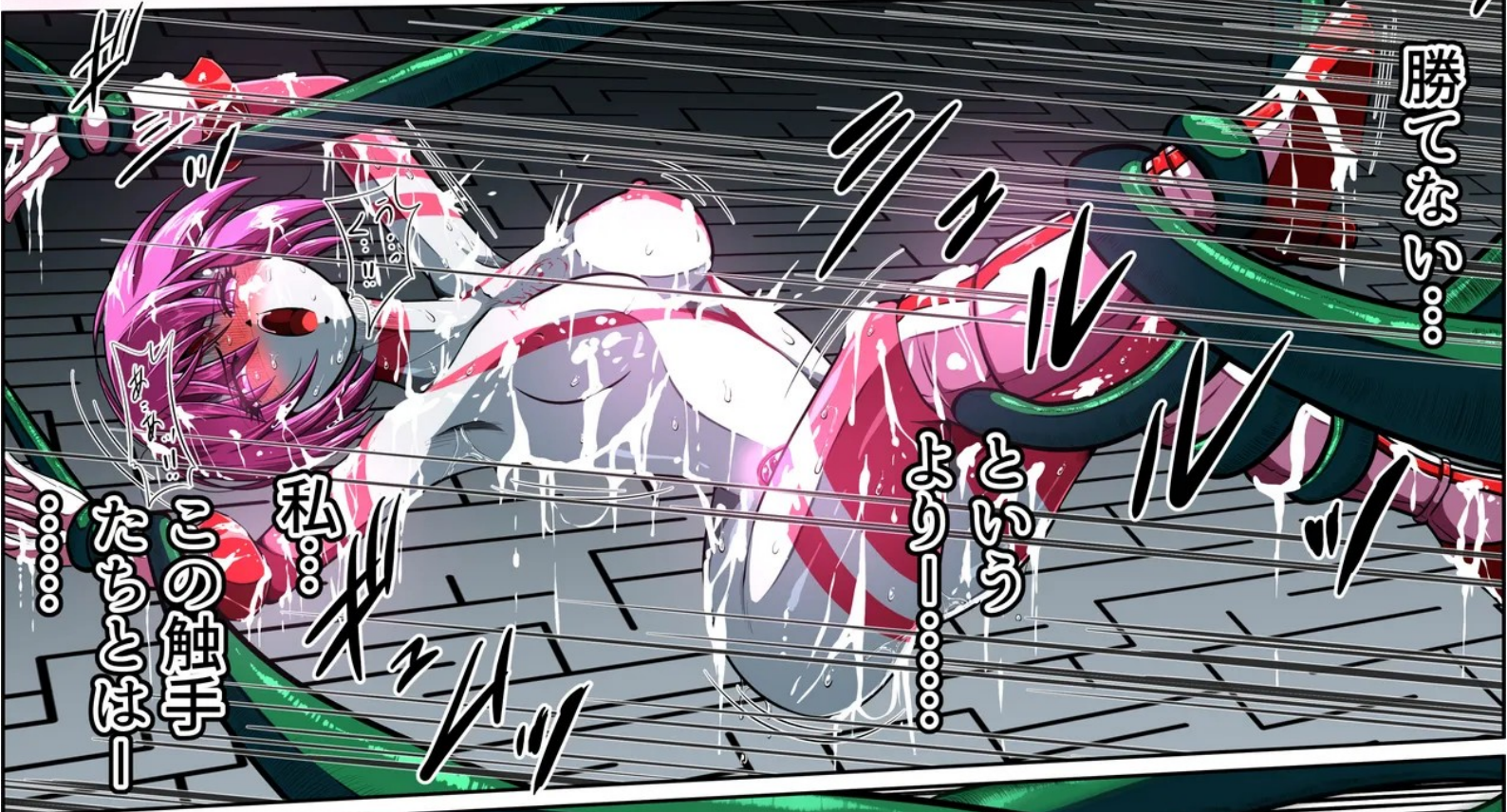
逃げられ
ない……

速すぎ
る……!!



また……
私を捕らえ
よう……!!

伸びてくる
触手たち……

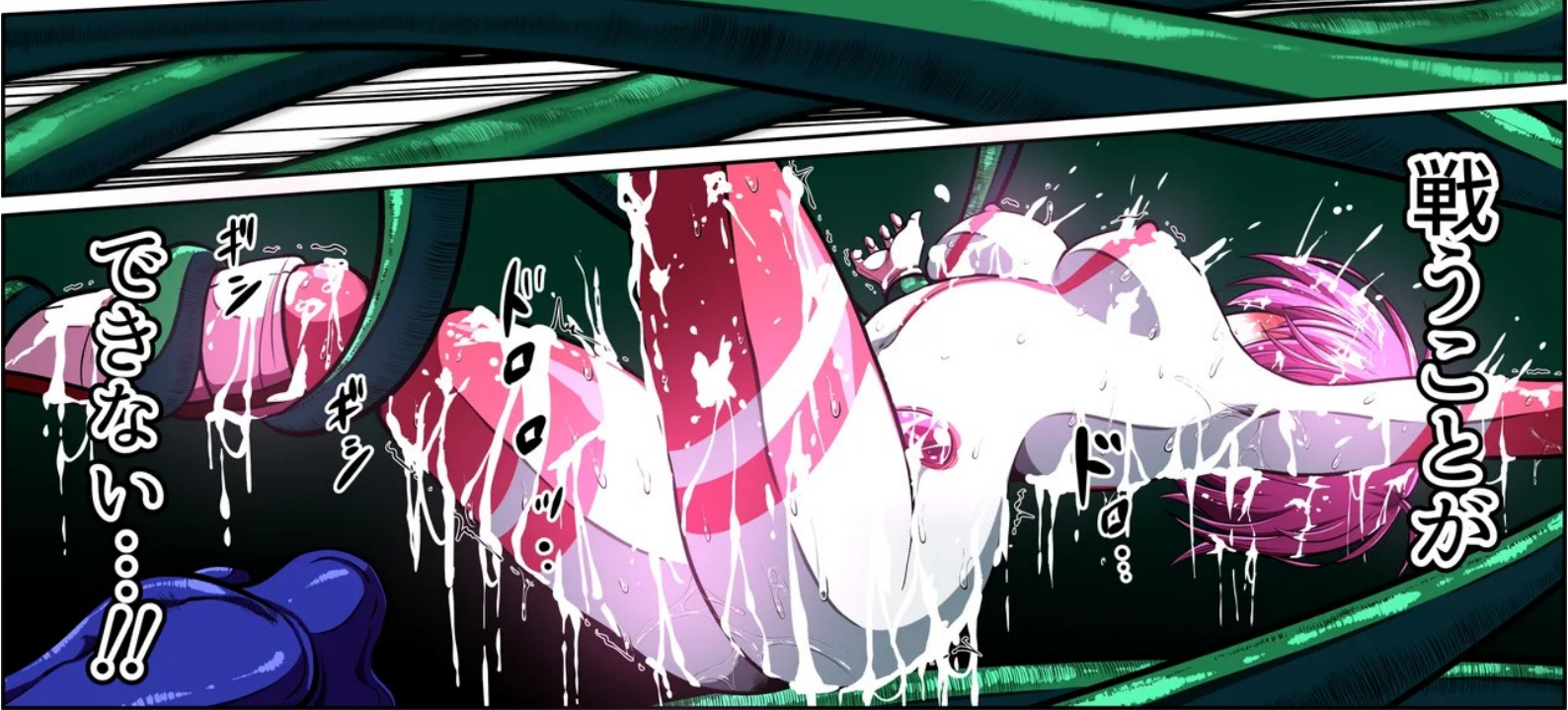


勝てない……

という
より……

私……

この触手
たちとは……



戦うことが

できない……!!

ククク…
ファイオラよ…

抵抗できまい
——…!!!

ドクン

ドクン

ドクン

その触手どもは
いわばお前の
『天敵』なのだ

こいつらの前では
お前は『獲物』
なんだよ

皇女でも
戦士でも
なく…な

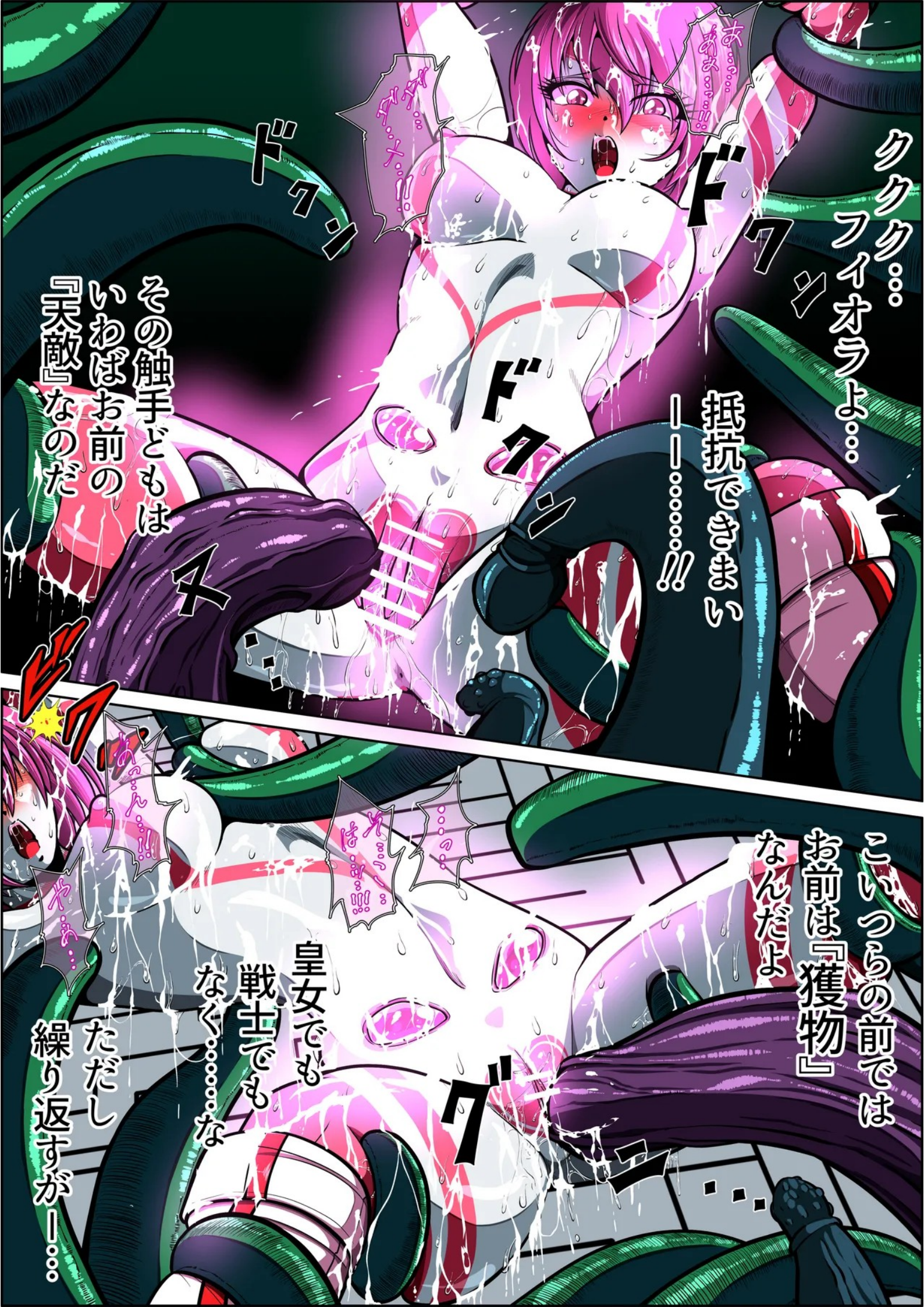
ただし
繰り返すが…

グ

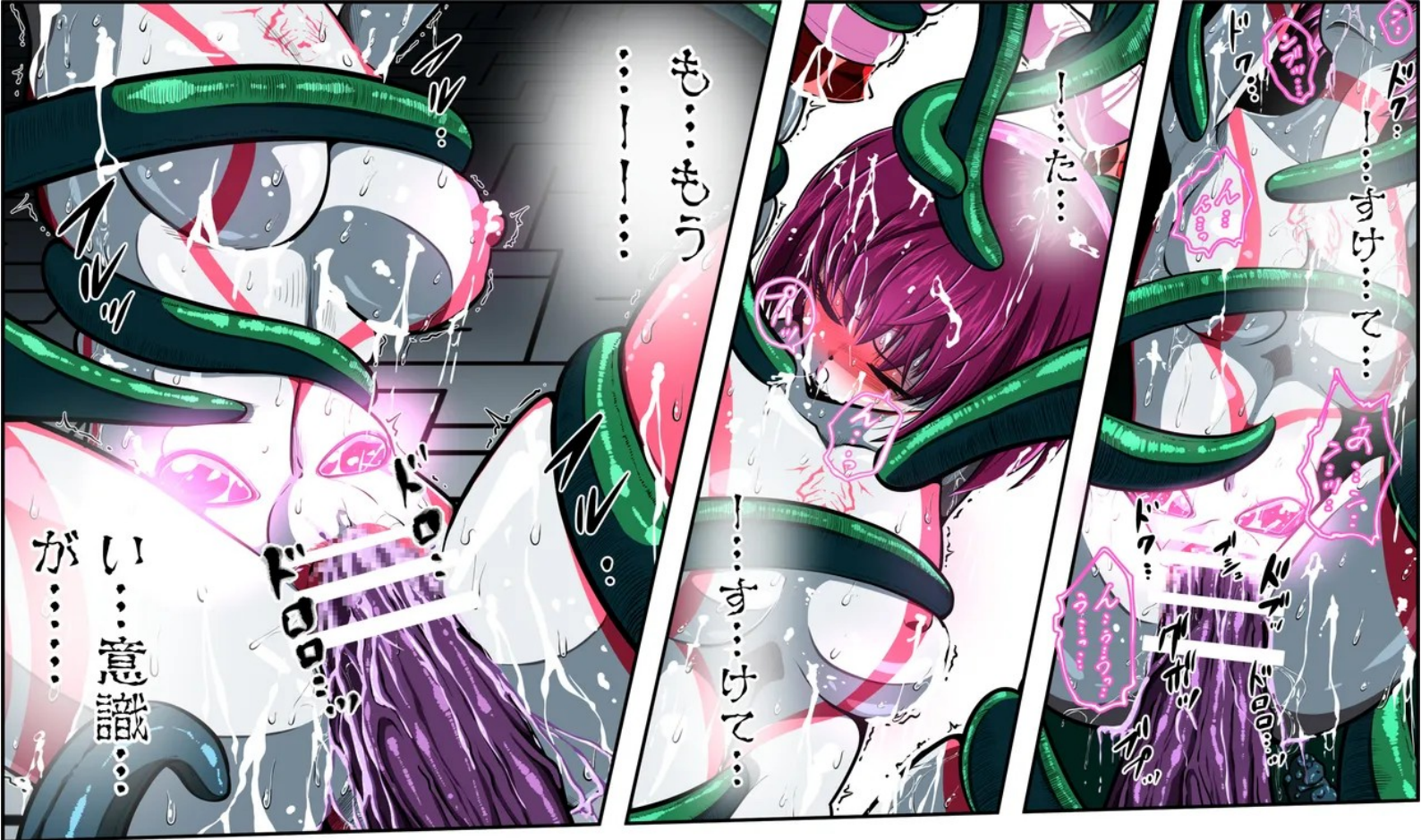
あ…ん…!!!

あ…ん…!!!

あ…ん…!!!







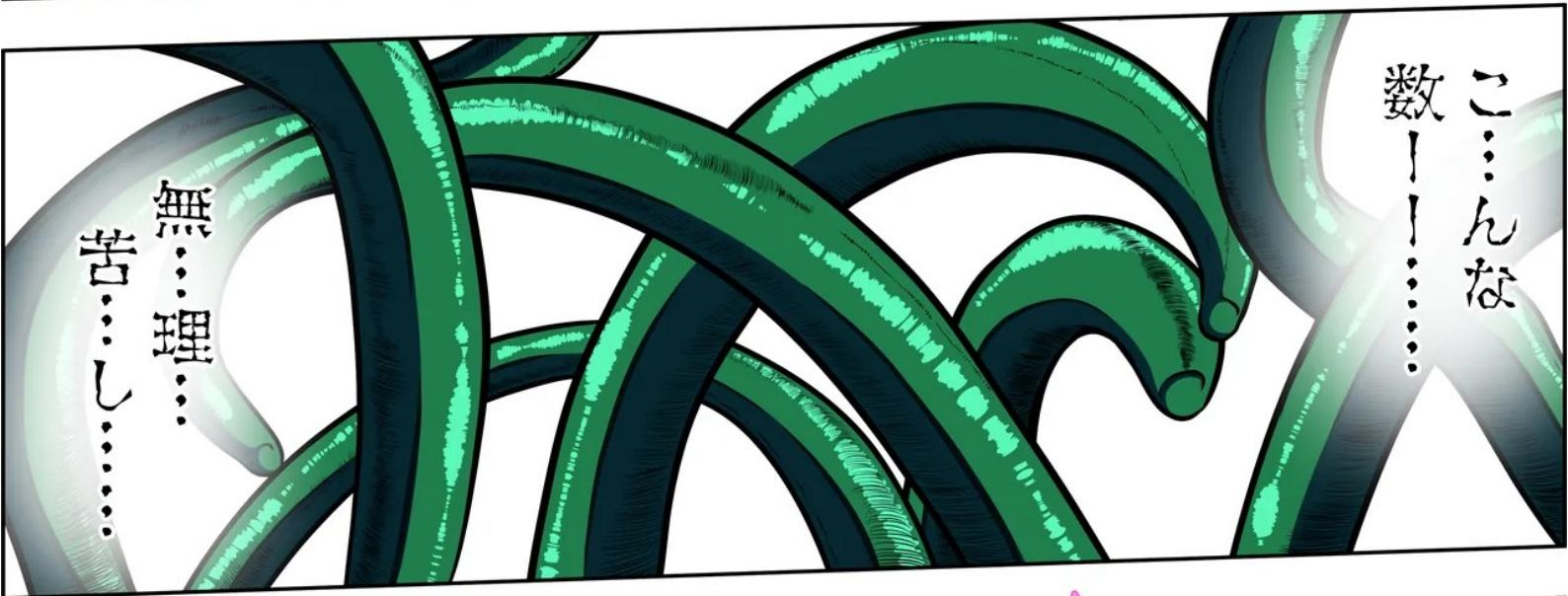
！……すけ……て……

！……た……

……じ……せ……

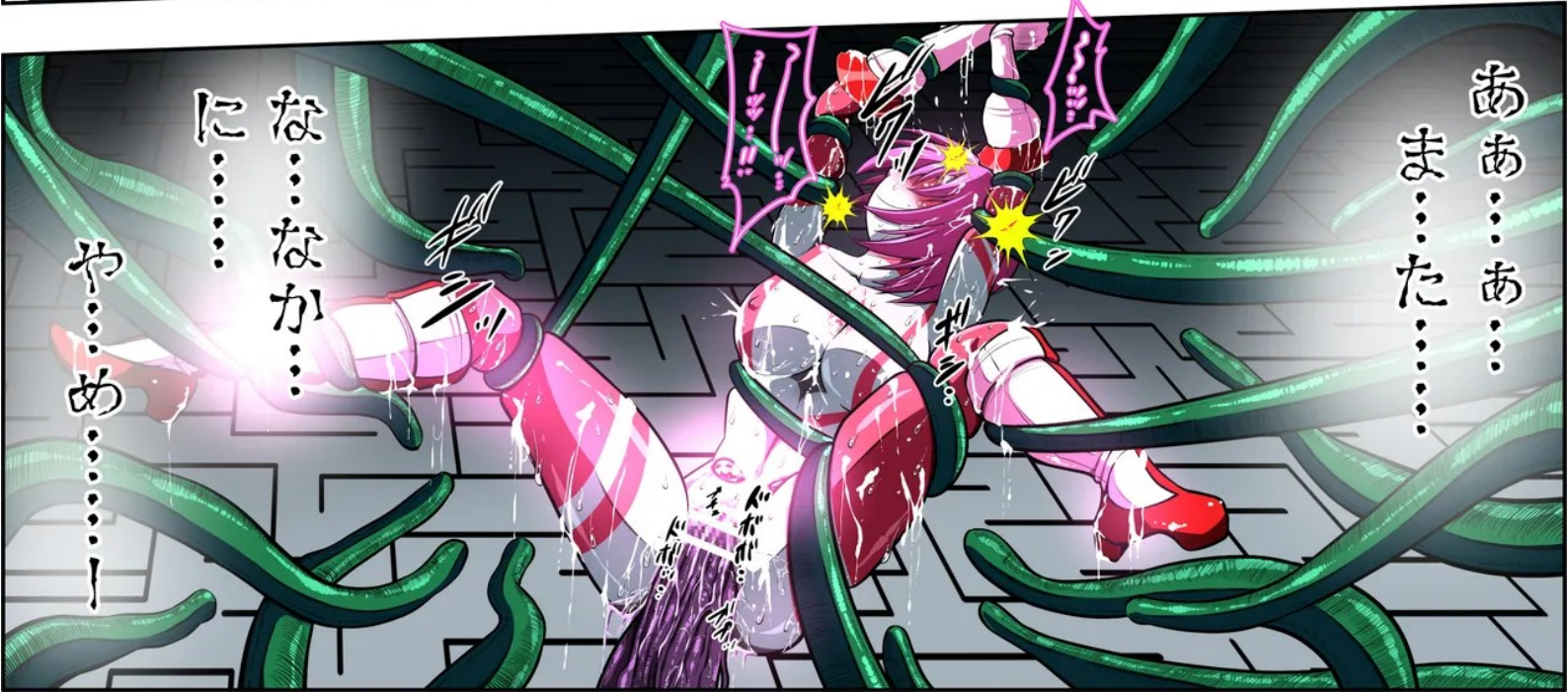
！……す……け……

が……い……意……識……



こ……んな
数……！……

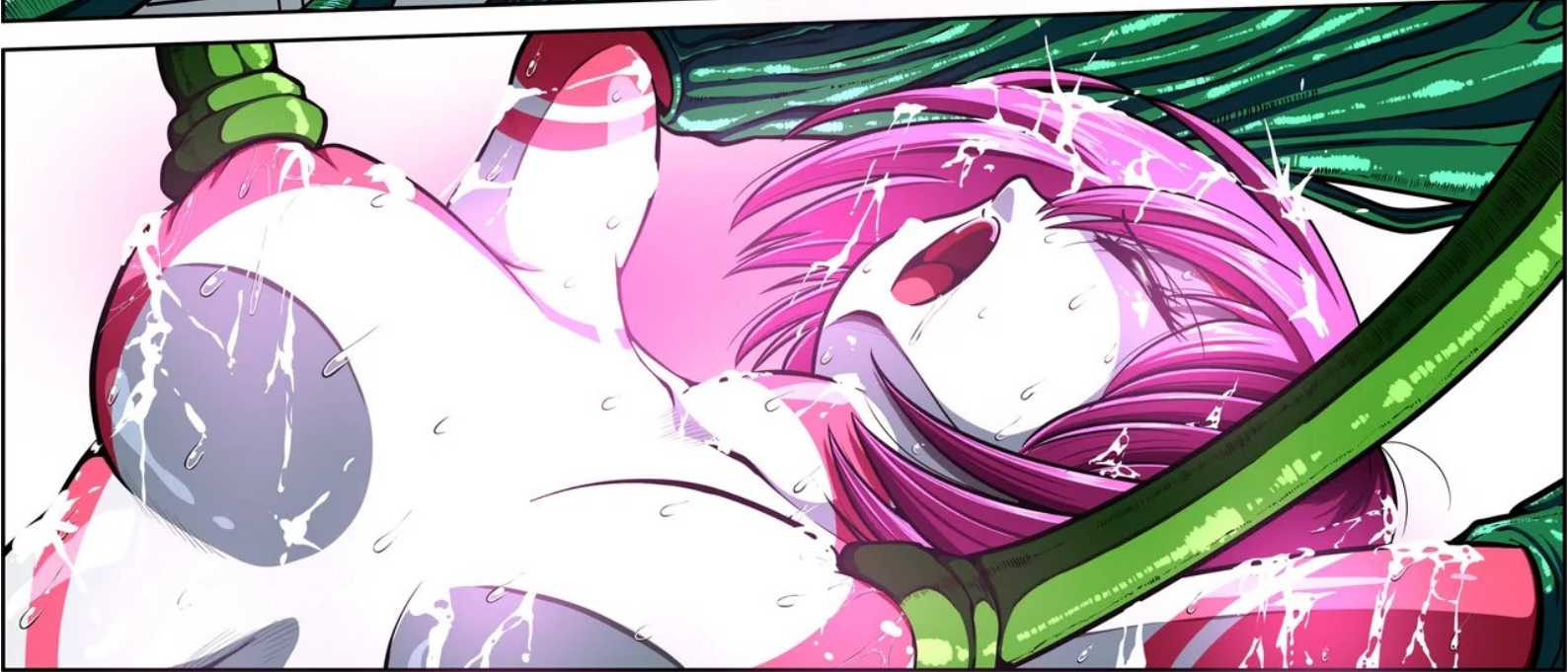
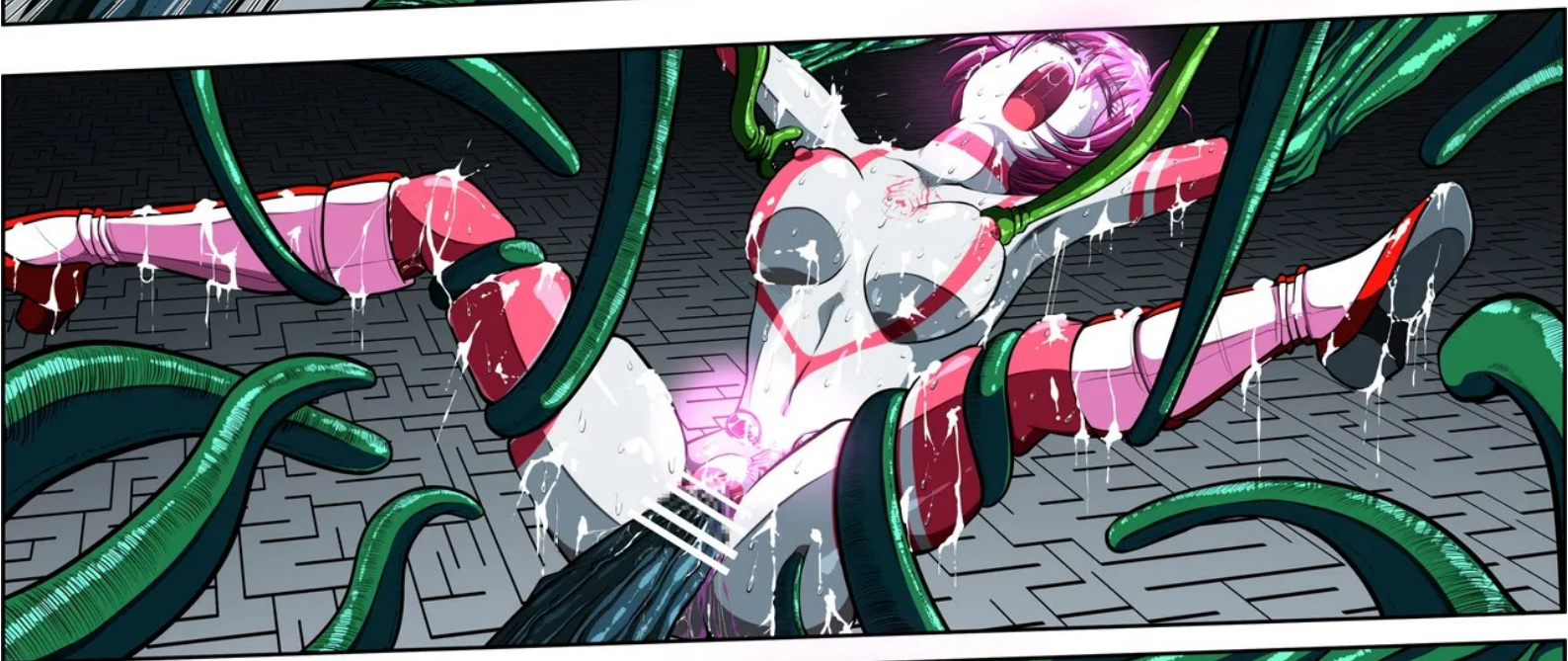
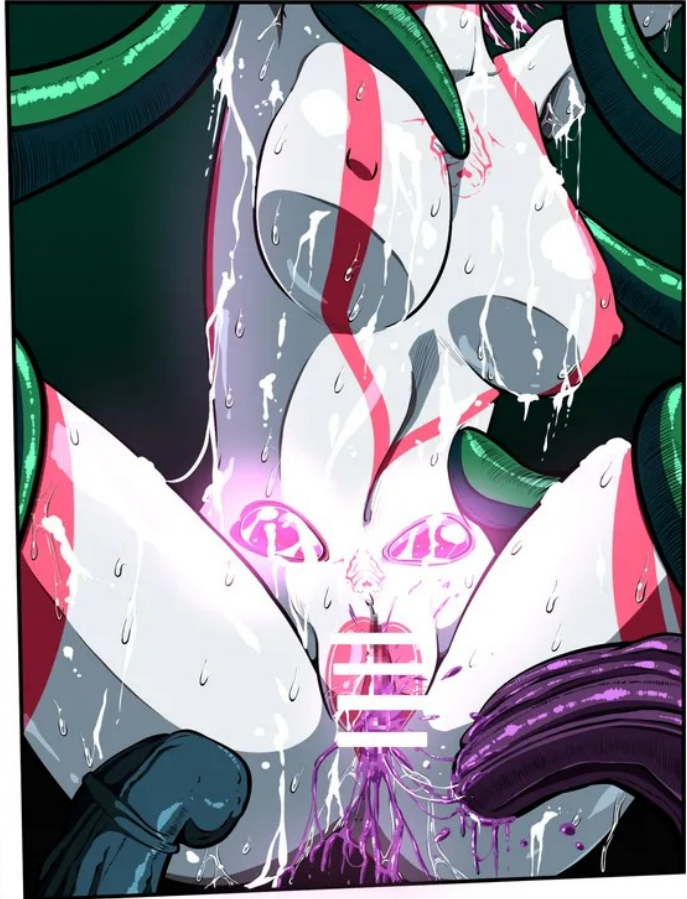
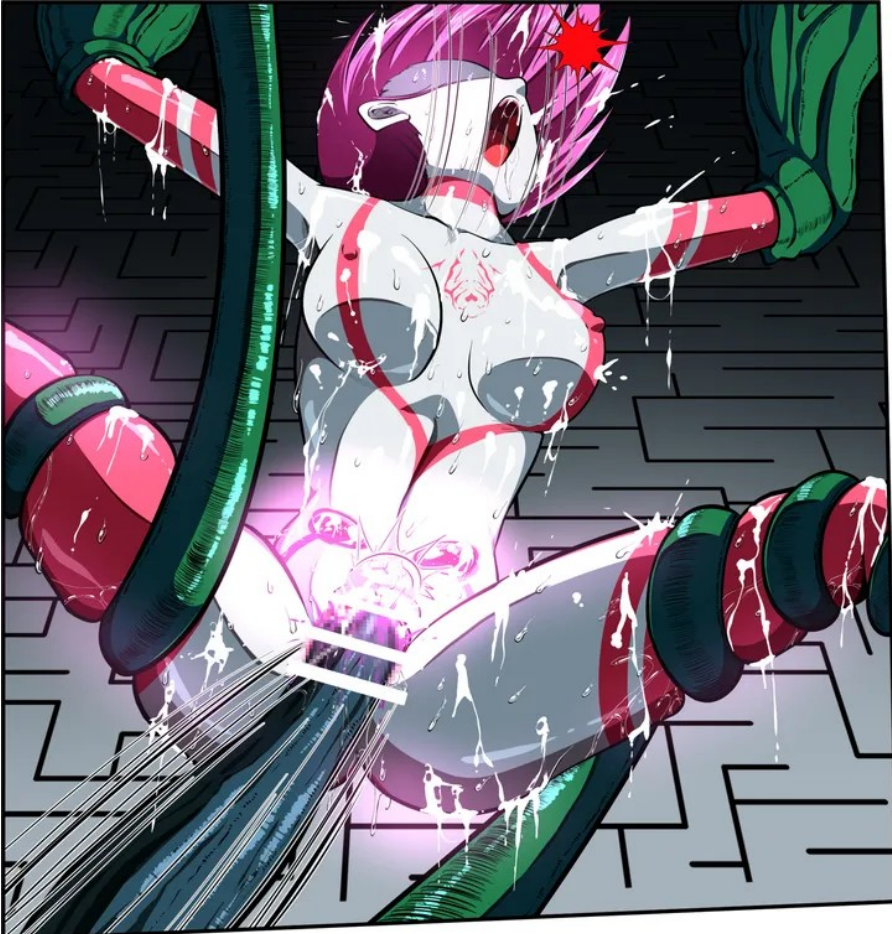
無……理……
苦……し……

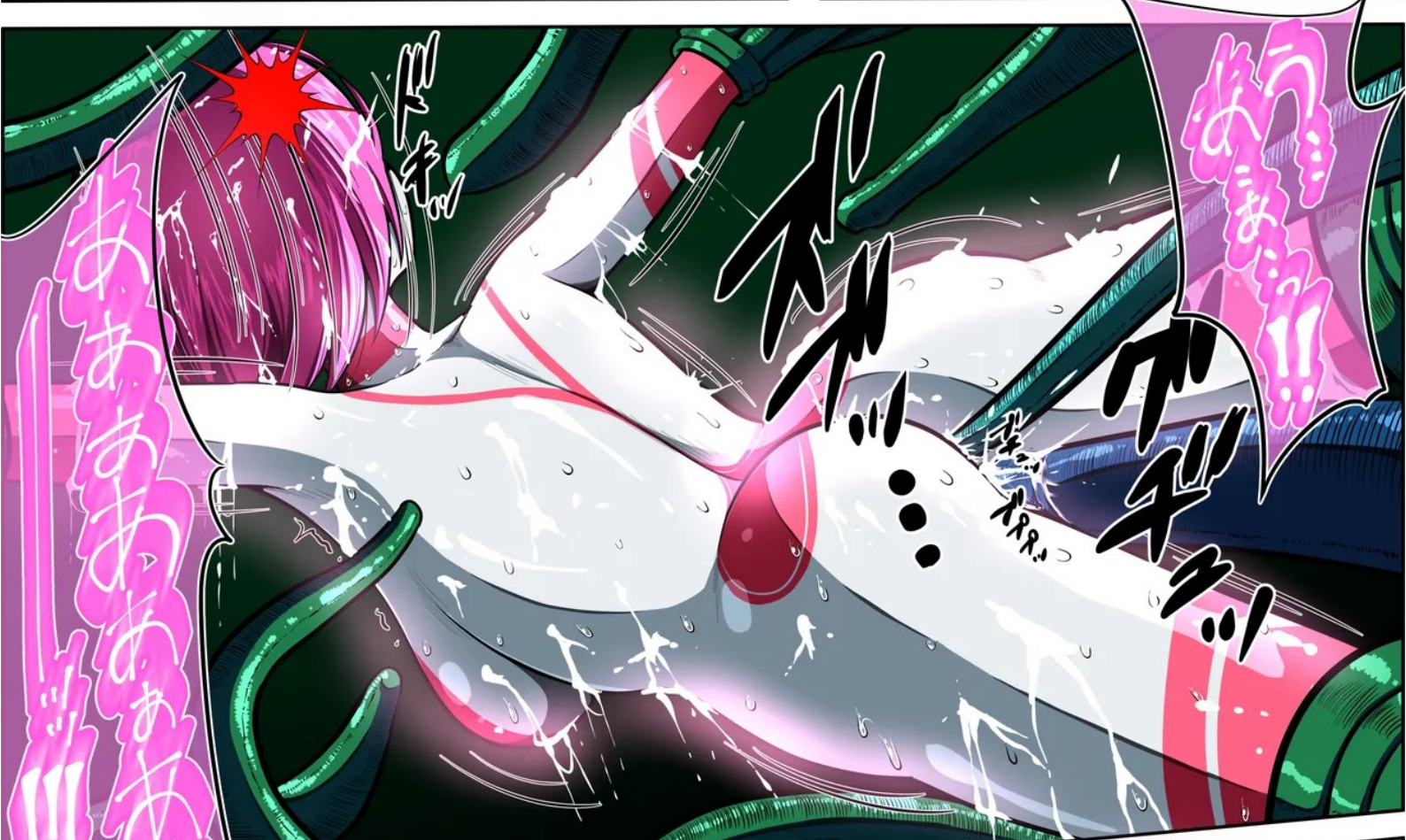
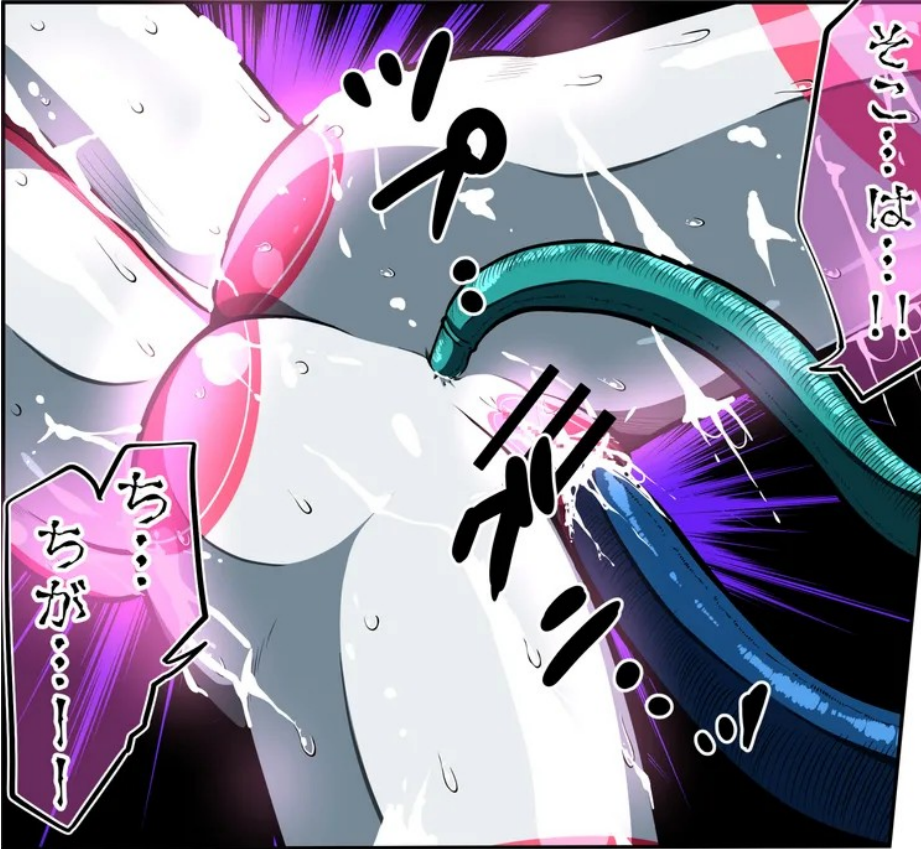


あ……あ……あ……
ま……た……

な……なか……
に……

や……め……





あ...あ...あ...

ち...
ちが...!!

あ...あ...あ...!!

うあ...ああ...
ぞ...ぞ...!!

あ...あ...あ...

あ...あ...あ...

あ...あ...あ...!!

あ...あ...あ...!!

ひど...す...
きる...!!

ひび...
こん...ない...

やめてツツ!!

.....

もう...ツ...
やめ...てツ!!!

もう...出さな
いで...ツ...!!!

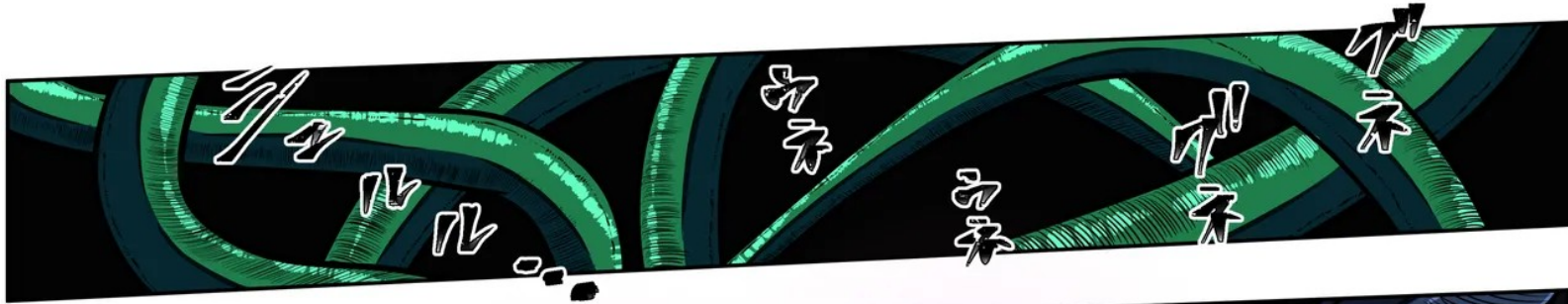
あああああ

ーーーツツ
!!!!

ツツ

ツツ







ククク…
お目覚め
かな？

ムッ



ずいぶんど
種を付けたら
よかったな…

快感で
失神する
ほどだ…
ククク…



…何…者
なの…？

一体…
あなた…
は…!!



ククク…
そんなことは
どうでもいい
だろう…

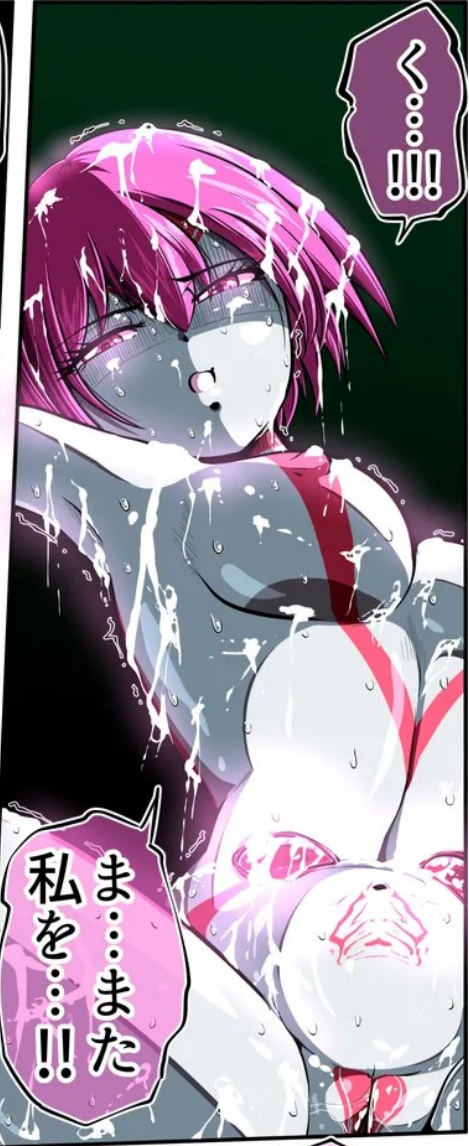
それよりも…
見るがいい
今、お前に迫って
いる触手…!!



ククク...

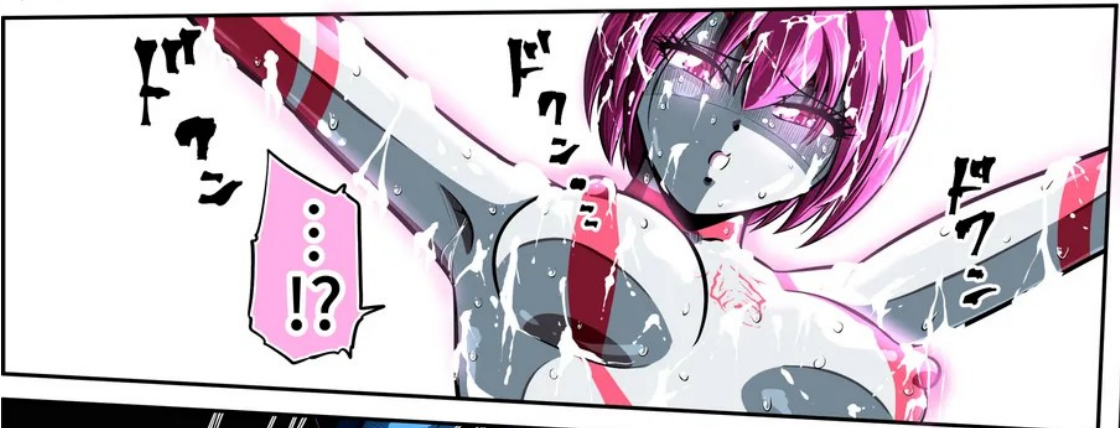
そうだが.....

先程までとは意味が違うぞ.....



く.....!!!

ま...また私を...!!

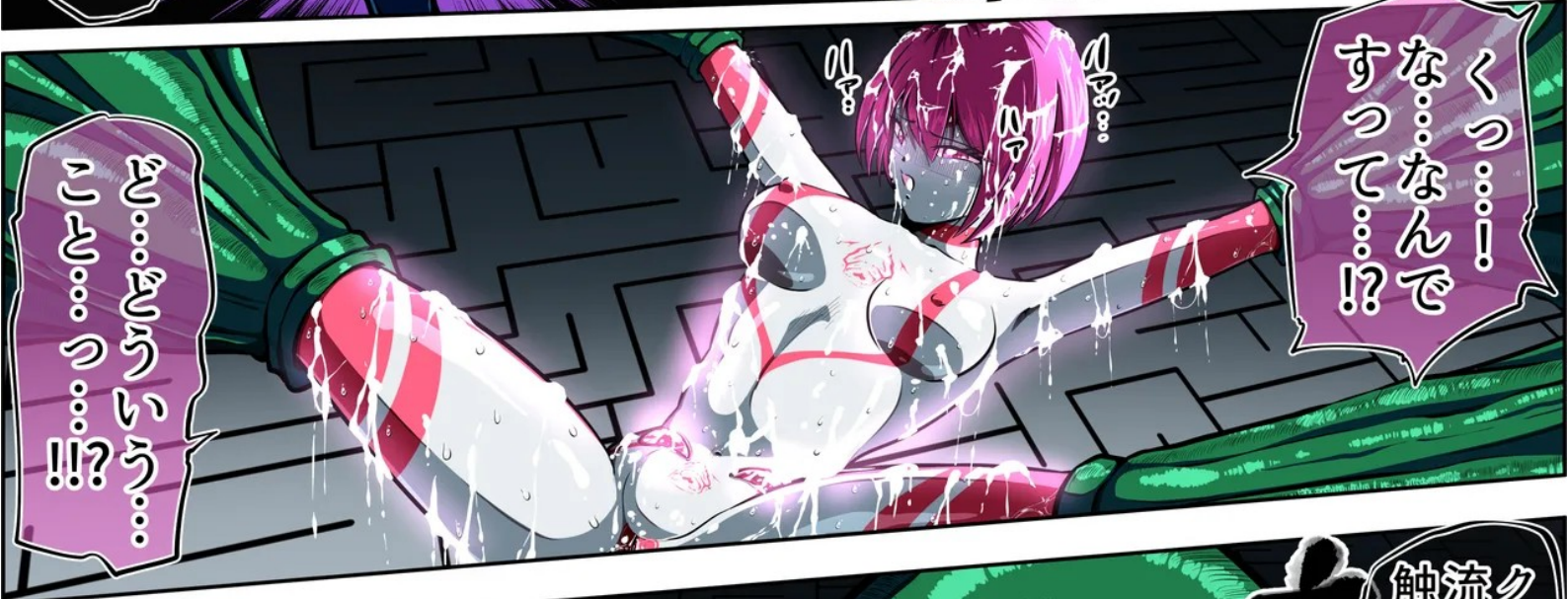


!?



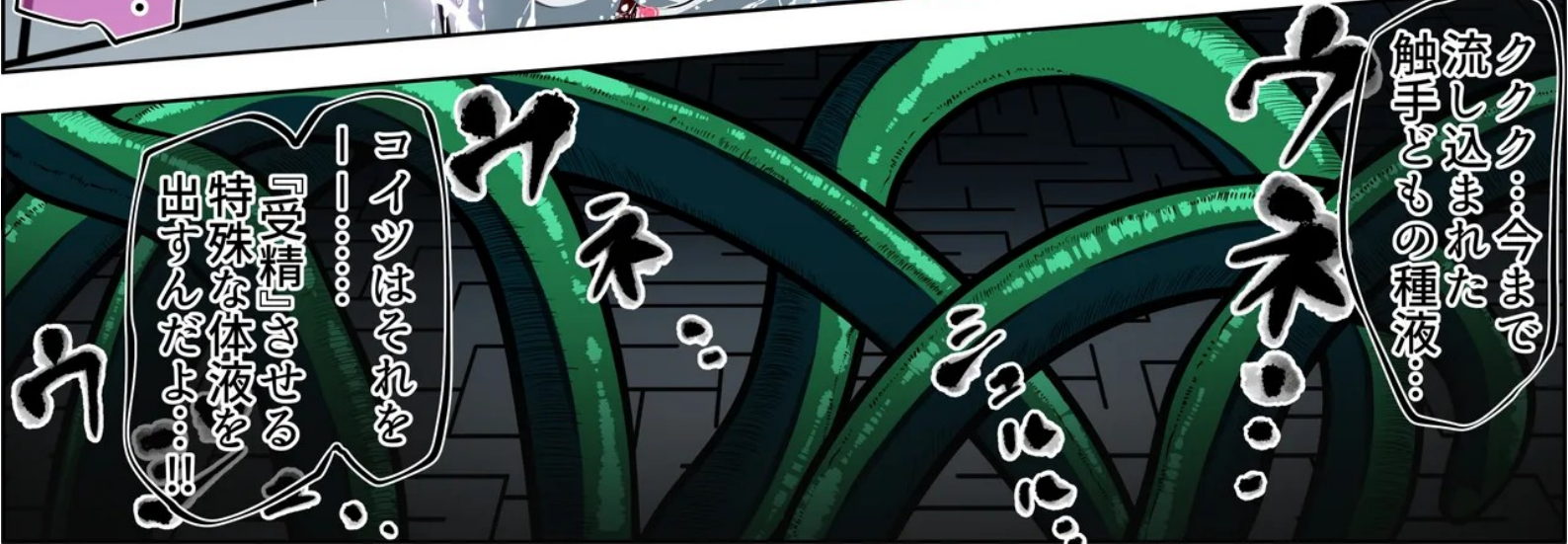
コイツは特別なヤツでな...

いわば『種付け』の仕上げ...だ



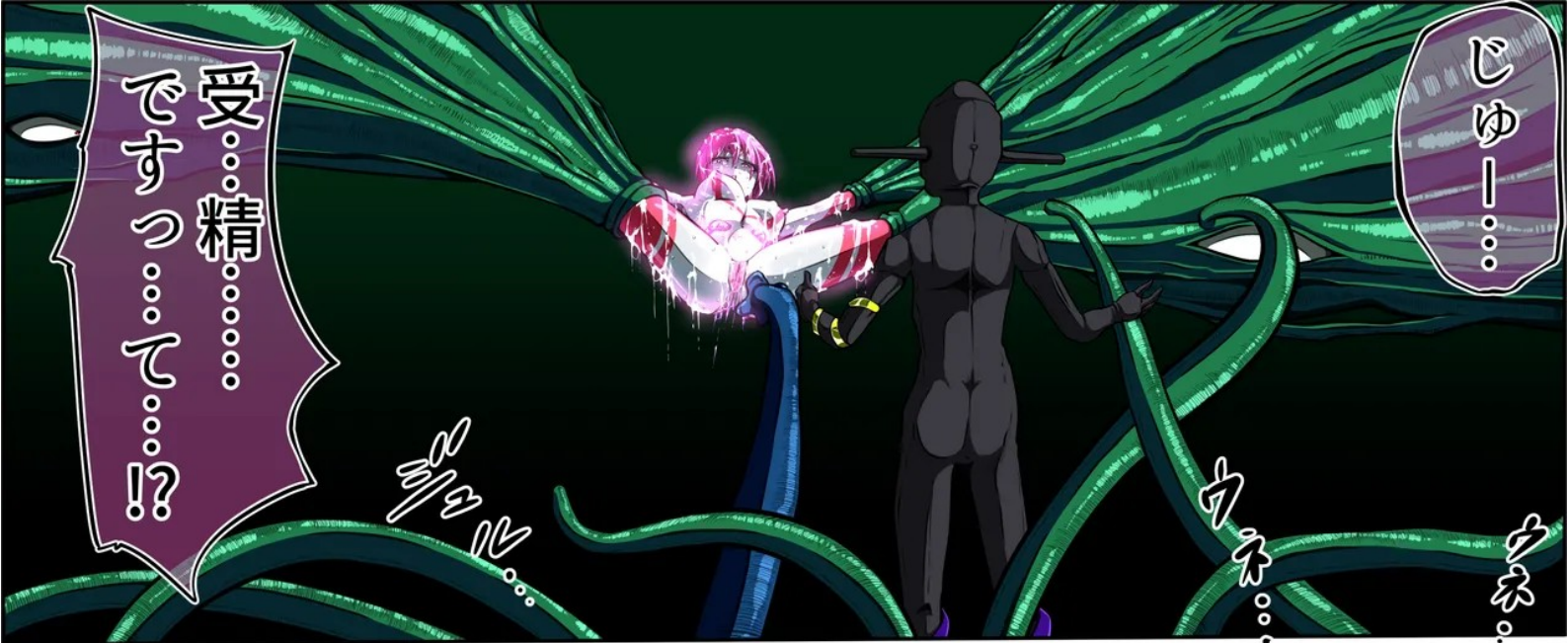
くっ...! な...なんで すって...!?

ま...ま...!!



ククク...今まで流し込まれた触手どもの種液...

コイツはそれを『受精』させる特殊な体液を出すんだよ...!!



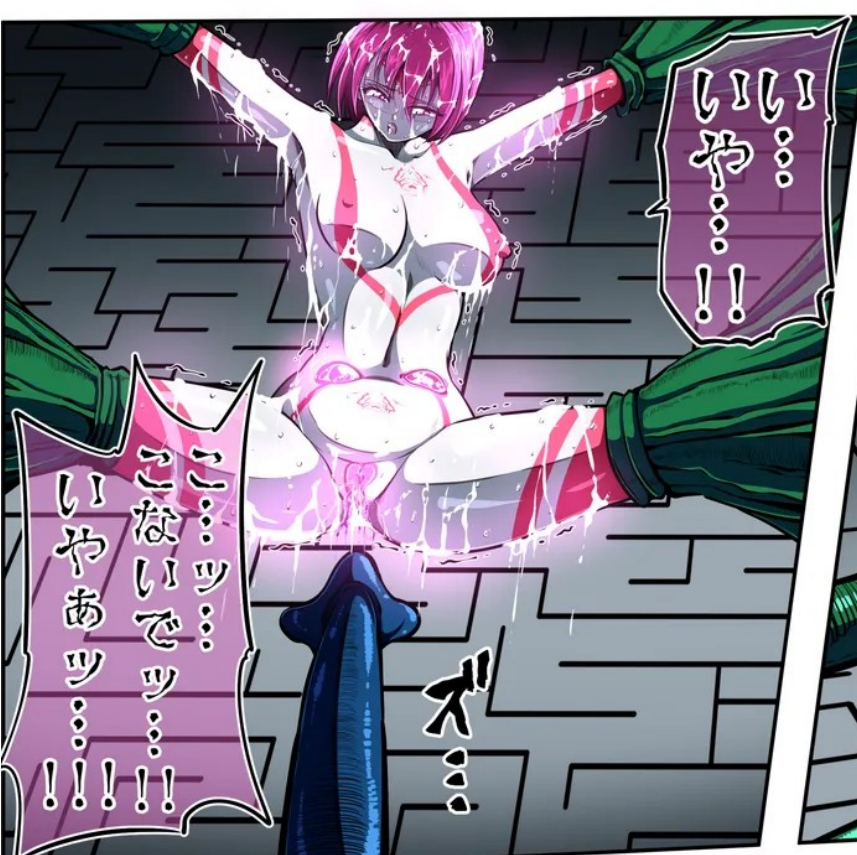
じゅー…

受…精…
ですつ…て…!?

うわ…

うわ…

うわ…



い…い…
や…!!

こ…ツ…
こないでツ…!!
いやあツ…!!!

ズ…



…クク
何を今さら

まさか、まだ
逃げられると
でも?

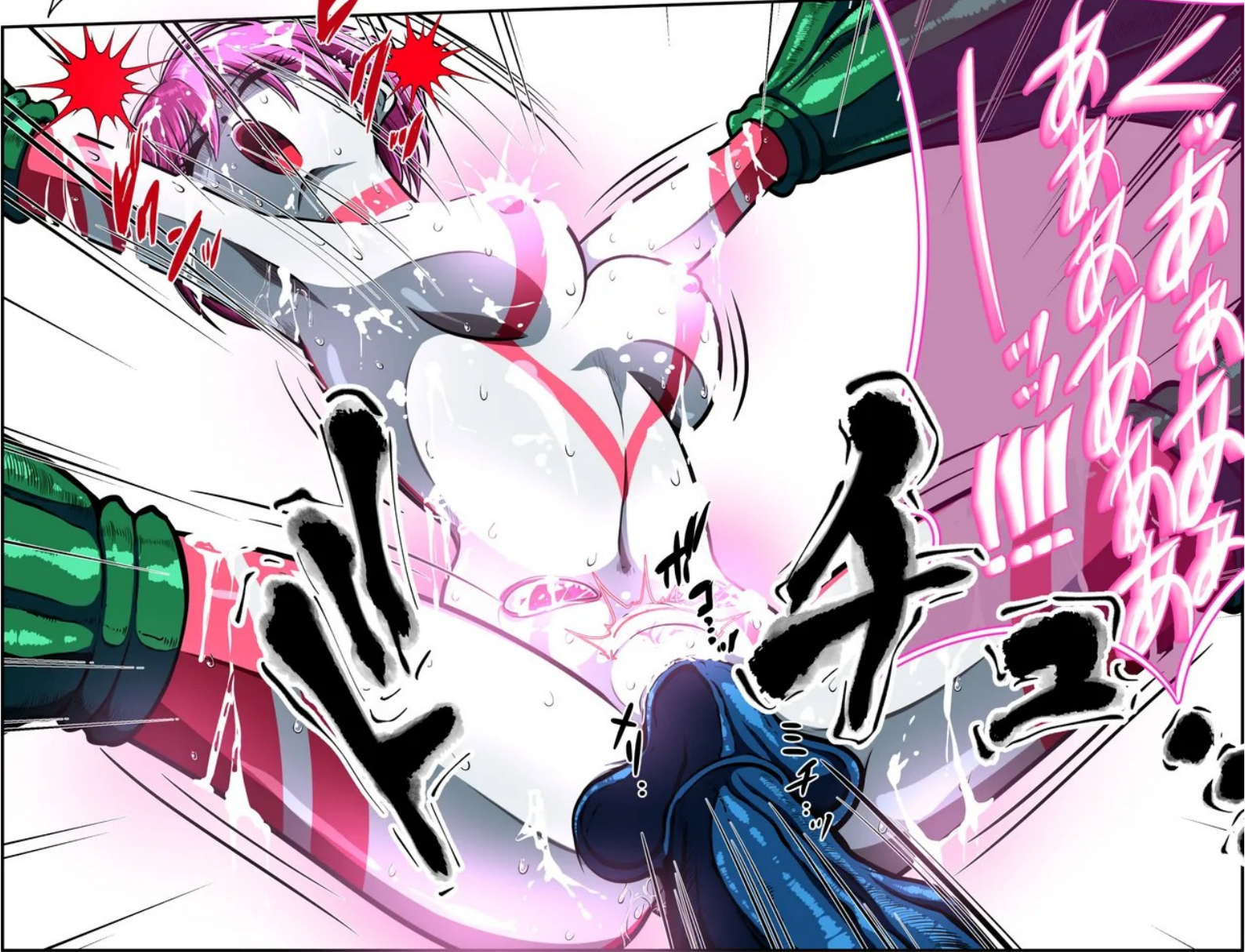
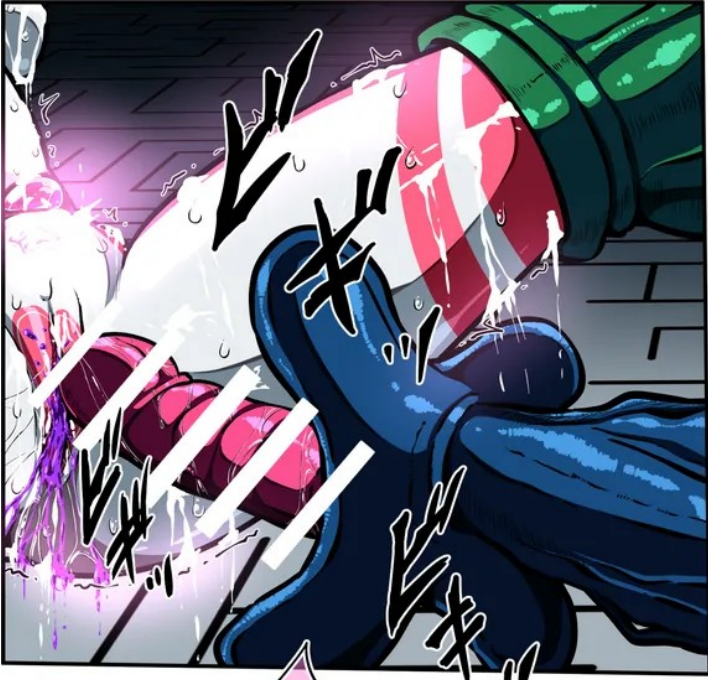


楽しみ
だよ…

お前
の…
優れた
遺伝子を持つ
化物の誕生がな

あ…

あ…





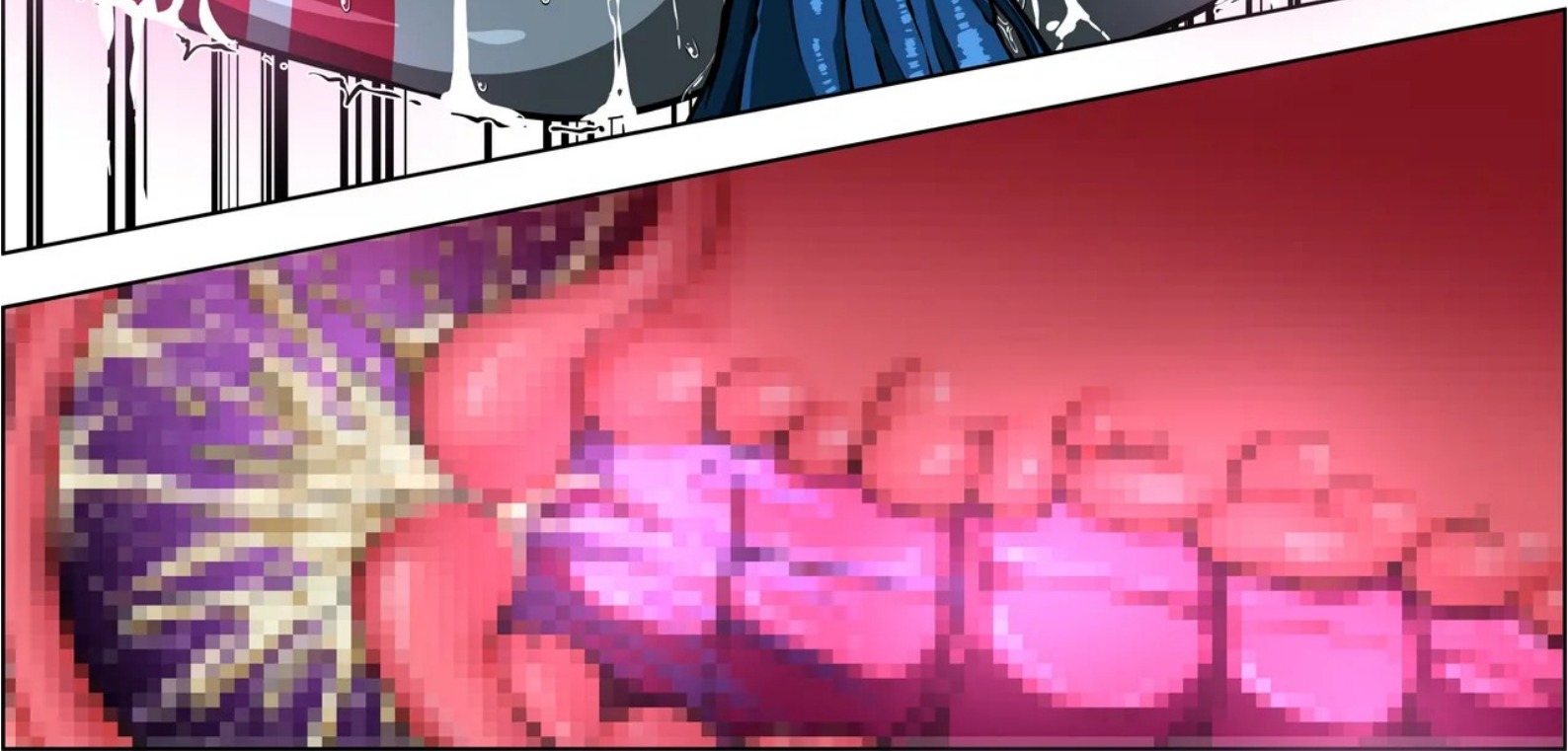
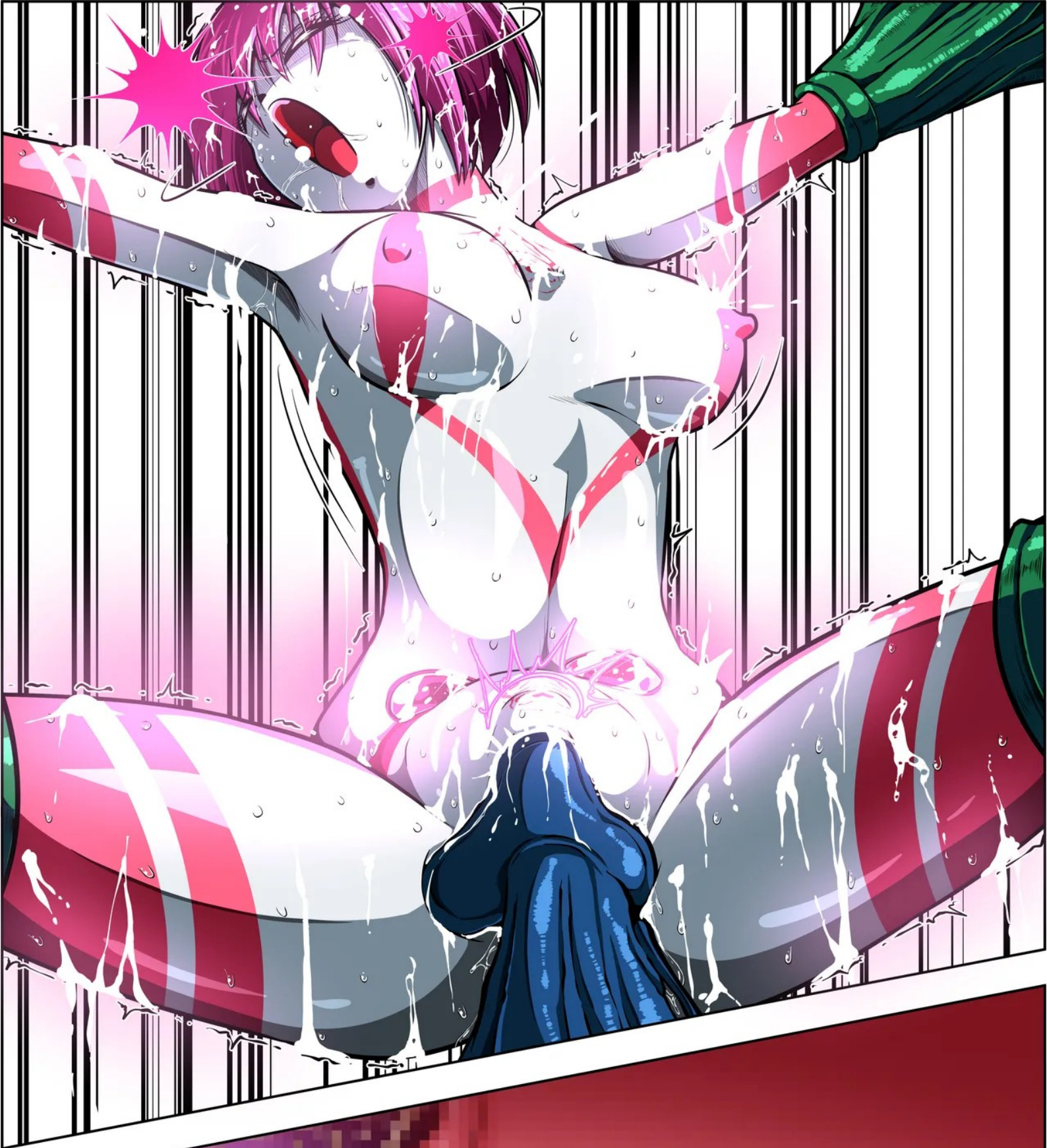
う...あ...
あああッ...!!

く...くる...!!
中で...大まへ...!!
.....!!

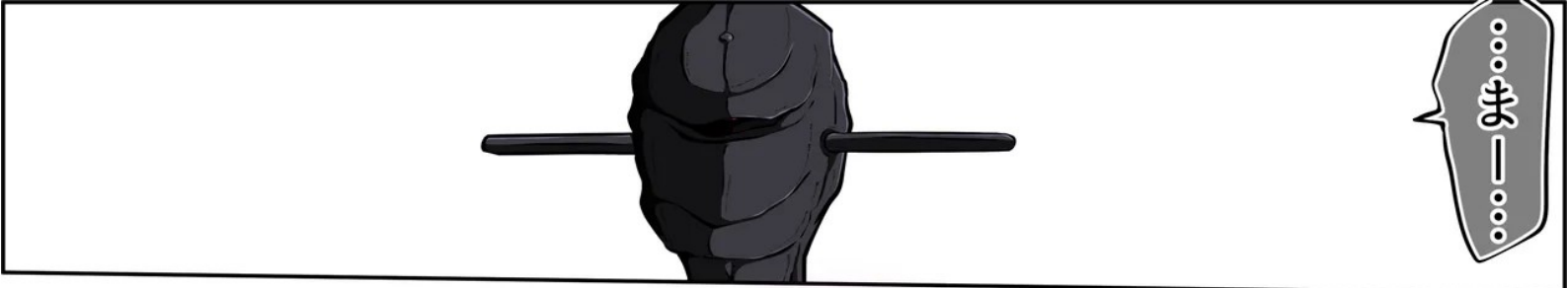


いやあああああ
あああああッ
!!!

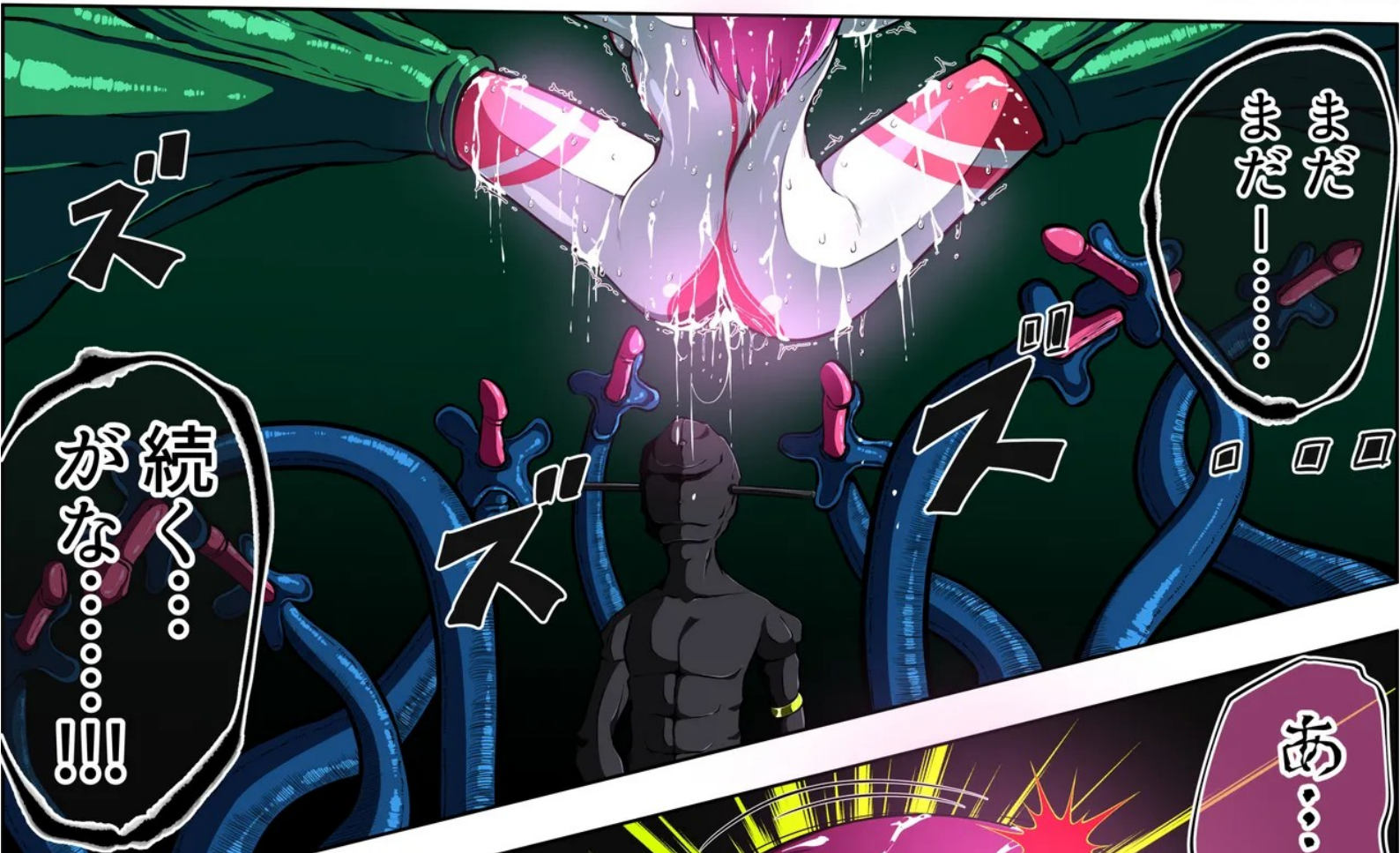
ギ
ギ
ギ







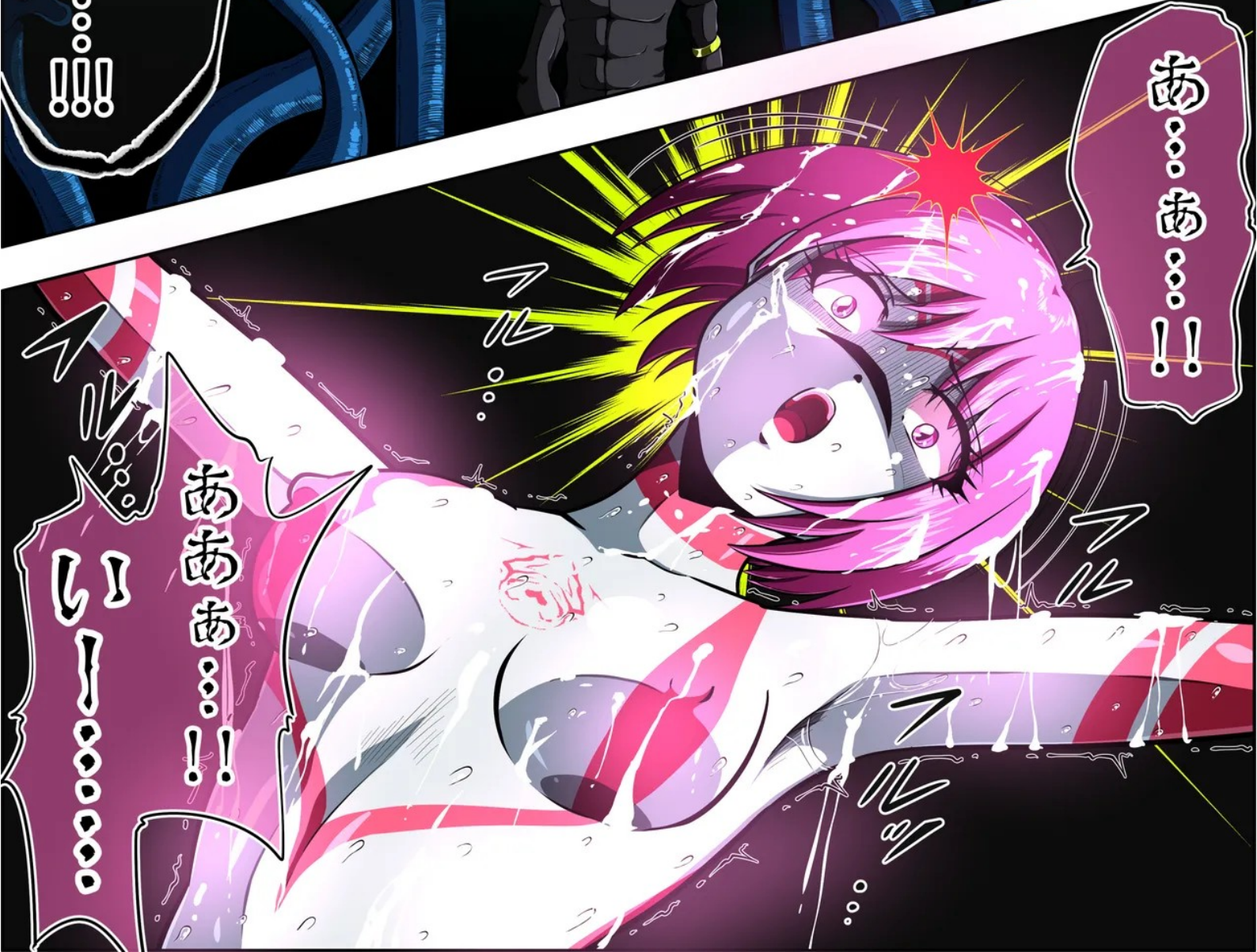
。。。まー。。。



まだ
まだ
。。。まー。。。

続
く
。。。が
な
。。。!!!

ズ
ズ
ズ



あ
。。。あ
。。。!!!

あ
あ
あ
。。。!!!
い
。。。!!!

いやあああああああ
ああー！ー！ツツ！！

やめてええええ
ー！ー！ツツ！！え







1匹ー…

また1匹と
ー…

ファイオラから
はい出てくる
触手の幼生…

その度、ファイオラから
抑えきれない喘ぎが
発せられる…!!

これでー…
総数合わせて
19匹…!!!

あぁあぁあぁ
!!!

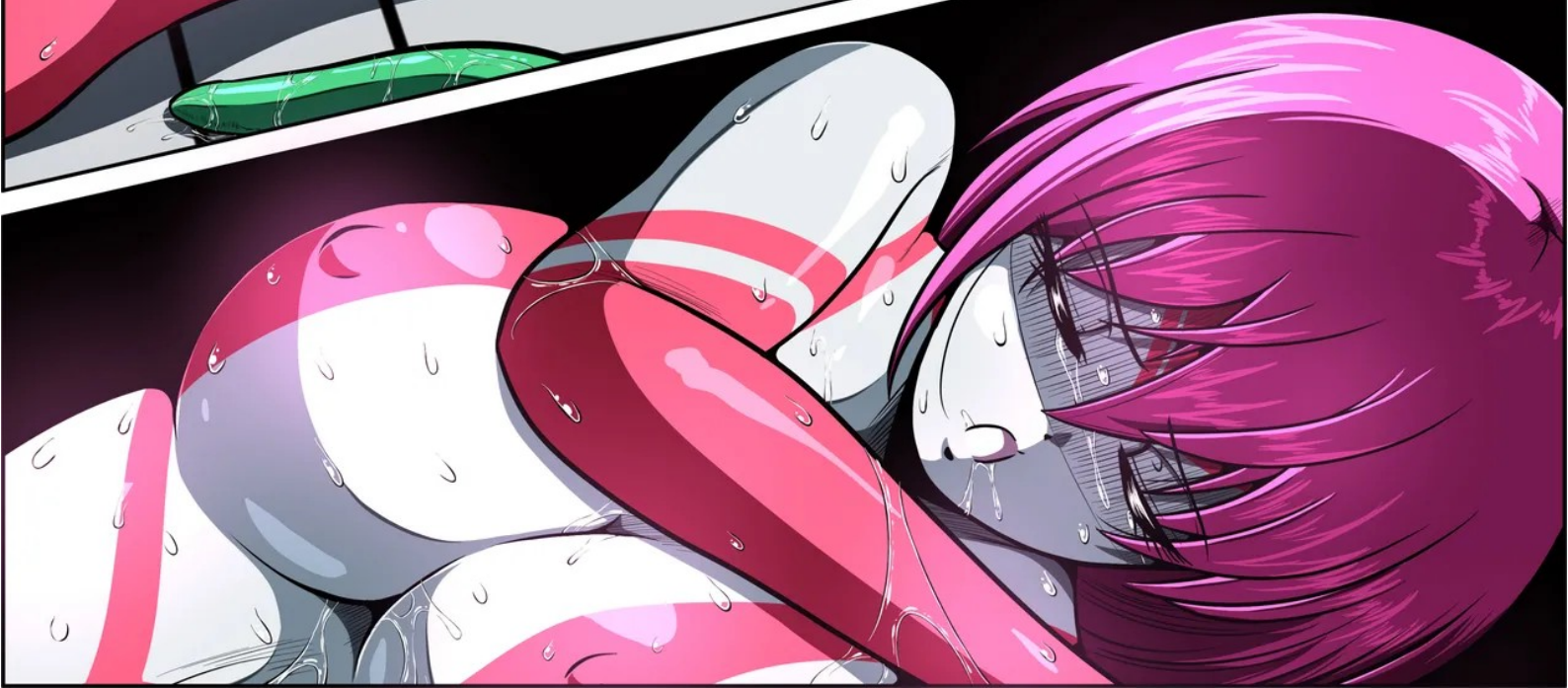
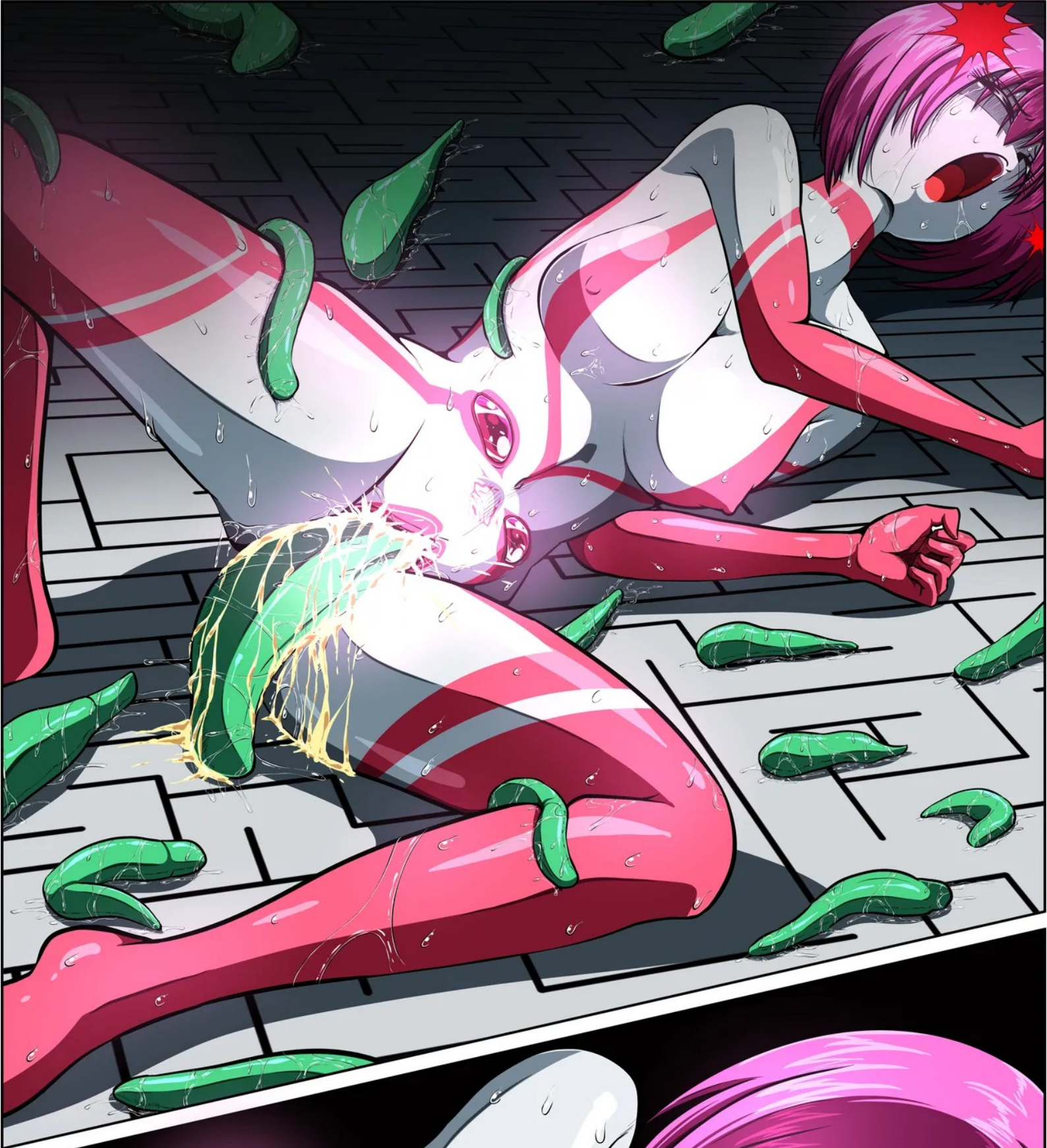
あぁあぁあぁ
!!!

ファイオラは
ー…

もはや
完全に

触手たちの
苗床と化して
しまった…





地獄は
終わった
——…

……
……

そう思ったのは
ファイオラ姫……

彼女だけ
だった……
!!!

ククク…
バカめ…!!

こんなもので
終わるわけが
なからう

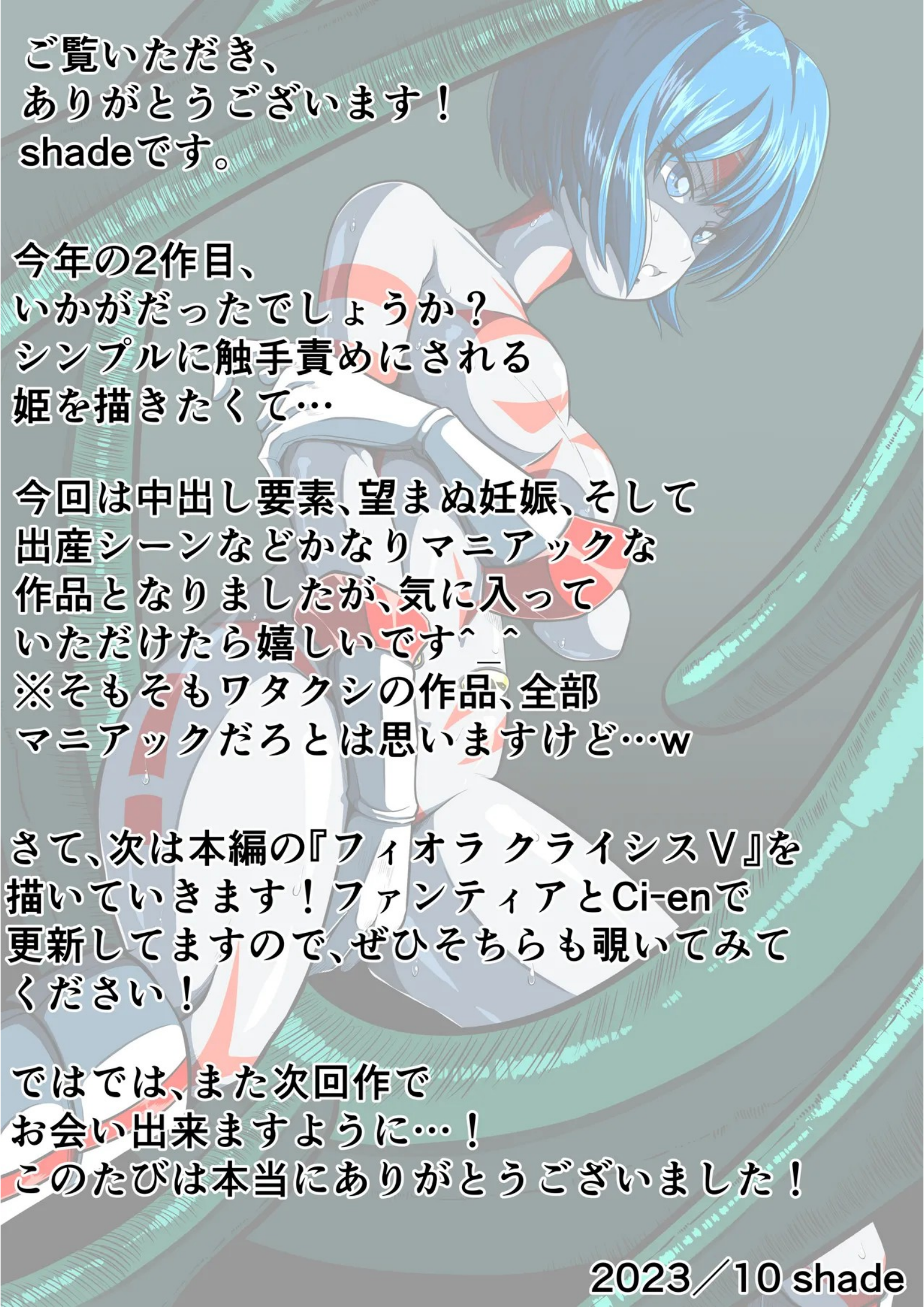
ファイオラ姫…
お前はもう…!!

触手からは
逃げられないの
だからな…!!!









ご覧いただき、
ありがとうございます！
shadeです。

今年の2作目、
いかがだったでしょうか？
シンプルに触手責めにされる
姫を描きたくて…

今回は中出し要素、望まぬ妊娠、そして
出産シーンなどかなりマニアックな
作品となりましたが、気に入って
いただけたら嬉しいです^^
※そもそもワタクシの作品、全部
マニアックだろとは思いますが…w

さて、次は本編の『フィオラクライシスV』を
描いていきます！ファンティアとCi-enで
更新してますので、ぜひそちらも覗いてみて
ください！

ではでは、また次回作で
お会い出来ますように…！
このたびは本当にありがとうございました！